

跡 墳 古 墳  
遺 古 塚  
田 1 号  
保 田 王  
久 久 魔  
く 久 久 燄  
ほ 保 田 王  
ほ 保 魔  
た 田 1  
た いち  
ごう  
おう  
づか  
その 1 集落編

2002年 3 月

長野県飯田市教育委員会



## 序

飯田市川路地区は、飯田市街地の南に位置し、名勝天竜峡に起因する肥沃な土地に恵まれた地域であります。この肥沃な土地を利用し、私たちの祖先は生活を営み、その痕跡が遺跡として現代に残されてきています。これらは私達の地域社会や文化を形作ってきた様々な証であり、できるかぎり現状のまま後世に伝えていくことが私達の責務でありましょう。

川路地区は、三遠南信道の計画を始め道路整備や住宅化が進みつつありますが、常に天竜川と向き合い、その恩恵に浴しながら、一方で川との長い闘いの歴史を持つ地域であります。今次調査の要因となった治水対策事業も、水害対策として低地を埋め立て、安心して暮らせる土地にしようとするのが目的です。しかし、埋め立てることにより私達の祖先の暮らしの痕跡が地中深くに眠ってしまうことになり、その確認がほぼ不可能になってしまいます。このため関係各機関と協議の結果、工事実施に先立って発掘調査を行って、記録保存を図ることとなりました。

調査結果については本文に述べてあるとおりですが、今回の調査では、削られてなくなってしまった古墳の様相や、久保田1号古墳が二重の周溝を持つ古墳であること、古墳を作るためにその周囲の住民が移動したこと等、多くのことがわかりました。調査で得られました様々な知見は、これからの地域の歴史を知っていく上で貴重な資料になると確信しています。

最後になりましたが、調査の実施に当たり文化財保護の本旨に多大なご理解とご協力をいただいた近隣地域の方々をはじめ、調査に関係されたすべての皆様方に深く感謝を申し上げます。

平成14年3月

飯田市教育委員会

教育長 富田 泰 啓

## 例 言

1. 本報告書は天竜川治水対策事業（川路地区）に伴い実施された、飯田市川路地区所在の埋蔵文化財包蔵 地久保田遺跡・久保田1号古墳・骸魔王塚古墳の緊急発掘報告書である。平成13年度に「その1集落編」を刊行し、平成14年度に「その2古墳編」を刊行予定しており、2分冊となる。
2. 発掘調査は飯田市治水対策部からの委託を受け、飯田市教育委員会が実施した。
3. 調査は平成10年度及び11年度に現地調査を、11～13年度に整理作業を、13年度に報告書作成作業を行った。各担当者は以下の通り。

平成10年度発掘調査担当	山下 誠一	西山 克己	
平成11年度発掘調査担当	益谷恵美子	佐々木嘉和	吉川 金利
遺物・図面整理担当	益谷恵美子		
遺構写真	各現場担当者		
空中写真	㈱ジャステック		
遺物写真	西大寺フォト	杉山和樹氏	
4. 発掘調査及び整理作業と報告書記載では、遺跡略号及び遺構番号を大幅に変更している。詳細はI3、「調査及び報告書記載の方法」にある。遺構は以下の記号を用いた。  
竅穴住居址：SB 掘立柱建物址柱：ST 方形（円形）周溝墓：SM 溝址：SD  
土壇・抗：SK 集石：SI
5. 発掘調査位置は国土基本図の区画MC04-1・2に位置し（社団法人日本測量協会 1969「国土基本図図式 同適用規定」参照）、グリッド設定は飯田市埋蔵文化財基準メッシュ図に基づいて㈱ジャステックに委託した。
6. 本書の記載については遺構の順とし、遺構図・遺物図・写真は本文末に一括した。
7. 表中の遺物記述に於いて、古墳時代以降の土器で器種のみものは土師器を示す。
8. 土層観察は発掘調査担当者の現地での所感を尊重し、敢えて統一を図らなかった。表現法は小山正忠・竹原秀男 1996『新版標準土色帖』による。
9. 遺物実測図の縮尺については、下記のとおりである。

土器：1/4	土製品：1/2	石器：1/3・1/1	木器：1/3・1/6
--------	---------	------------	------------
10. 本書は各担当者の所感に基づき、吉川金利が編集し、小林正春が総括した。
11. 本書に関する出土品及び踏記録は飯田市教育委員会が管理し、飯田市考古資料館及び飯田市上郷考古博物館で保管している。



# 目次

序	本文目次		
例言			
目次			
I 調査経過			
1. 調査に至るまでの経過	1	⑫SB13	14
2. 調査の経過	2	⑬SB15	14
3. 調査及び報告書記載の方法	3	⑭SB16	14
4. 調査組織	6	⑮SB17	15
(1) 調査団	6	⑯SB18	15
(2) 事務局	7	⑰SB19	15
		⑱SB20	15
		⑲SB21	16
		⑳SB23	16
II 遺跡環境		(2) 掘立柱建物址 (ST)	
1. 自然環境	8	①ST01	16
2. 歴史環境	8	②ST02	16
		③ST03	16
		④ST04	16
		⑤ST05	16
		⑥ST06	16
		⑦ST07	16
III 調査結果		(3) 方形周溝墓 (SM)	
1. 基本層序	11	①SM01	17
2. 遺構		②SM02	17
(1) 竪穴住居址 (SB)		③SM03	17
①SB01	11	(4) 溝址 (SD)	
②SB02	11	①SD01	18
③SB04	12	②SD02	18
④SB05	12	③SD03	18
⑤SB06	12	④SD04	18
⑥SB07	12	⑤SD06	18
⑦SB08	13	⑥SD07	18
⑧SB09	13	⑦SD08	18
⑨SB10	13	⑧SD11	18
⑩SB11	13	⑨SD17	18
⑪SB12	14	⑩SD18	18
		⑪SD19	18
		⑫SD20	18

⑬ S D 21	18
⑭ S D 22	18
⑮ S D 23	18
⑯ S D 24	18
⑰ S D 25	18
(5) S K (土壌・抗)	
① S K 01	19
② S K 02	19
③ S K 03	19
④ S K 04	19
⑤ S K 05	19
⑥ S K 06	19
⑦ S K 07	19
⑧ S K 08	19
⑨ S K 09	19
⑩ S K 10	19
⑪ S K 11	19
⑫ S K 12	19
⑬ S K 13	19
⑭ S K 14	19
⑮ S K 15	19
⑯ S K 16	19
⑰ S K 17	19
⑱ S K 18	19
⑲ S K 19	19
⑳ S K 20	19
㉑ S K 21	19
㉒ S K 22	19
㉓ S K 23	19
㉔ S K 24	19
㉕ S K 25	19
㉖ S K 26	19
㉗ S K 27	19
㉘ S K 28	19

㉙ S K 29	19
㉚ S K 30	19
㉛ S K 31	19
㉜ S K 32	19
㉝ S K 33	19
㉞ S K 34	19
(6) 集石 (S I)	
① S I 01	19
② S I 02	19
③ S I 03	19
④ S I 04	19
⑤ S I 05	19

図版.....23

写真図版.....75

報告書抄録.....111

# I 調査の経過

## 1. 調査に至るまでの経過

飯田市川路地区は伊那盆地の最南端、天竜川左岸に位置し、下流には名勝「天竜峡」が所在する。しかし、天竜川によって形成された峡谷部は、時として上流の天竜川氾濫原・低位段丘面に洪水をひきおこし、川路・龍江・竜丘地区に甚大な被害をもたらしてきた。殊に昭和36年の災害（三六災）は、川路地区の中心部が水没する大災害となった。こうした点から天竜川の治水対策が大きな課題となっていたのである。

そこで川路・龍江・竜丘地区において、昭和36年の水害の被害状況を勘案し、「天竜川治水対策事業」を行うこととなった。この事業は昭和36年の災害時に浸水した高さまで盛土を実施するものであるが、盛土対象地および盛土採取地には多くの埋蔵文化財包蔵地が存在する。このため、昭和61年10月16日、その保護について長野県教育委員会文化課・飯田市治水対策部・飯田市教育委員会の三者による最初の保護協議が実施され、以後数回にわたる協議を経て、平成4年度に龍江地区において事業地内の遺跡の状況を把握するための試掘調査が行われた。

その後平成5年3月9日に行われた保護協議時の指導及び同年5月6日付文化庁の指導を受け、平成5年5月19日付5教文第7-21号による県教育委員会からの回答で、同事業に関わる埋蔵文化財の保護について下記の原則が示された。

- 原則としては試掘調査により把握された遺構確認面及び遺構包含層から2mを越える盛土の範囲は発掘調査を行い記録保存を図る。
- 2m以下の盛土の範囲についてはトレンチによる確認調査を実施し、遺跡の状況を把握し、地下遺構の保存を講ずると共に、その判断された内容を記録保存し、後世に伝える。

これに基づき、まず天竜川左岸の龍江地区から発掘調査及び試掘調査が行われることとなり、平成5年12月15日から平成7年9月11日まで龍江城遺跡・龍江阿高遺跡・田中下遺跡・細新遺跡の4遺跡の発掘調査が実施された。

天竜川右岸の川路地区は平成7年10月に治水対策部と飯田市教育委員会との間で協議が行われ、翌年1月より島・金山・久保田・留々女・殿村・井戸下の6遺跡で試掘調査が実施された。これらの試掘結果に基づき各遺跡の調査を行う事となった。

## 2. 調査の経過

久保田遺跡及び久保田1号古墳・骸魔王塚古墳の現地調査は平成9年度から平成11年度まで3ヶ年に亘って行われた。

平成9年12月11・12日に重機により久保田1号古墳北側の調査対象地区にトレンチを設定し、遺跡の状況を確認した。北側の一部を除き全面的に遺構・遺物が確認され、調査区範囲を設定した。引き続き重機によって表土剥ぎを行い、12月22日には作業員による作業を開始した。調査区北側は道路用地となり、工事日程の都合から先行して調査が行われ、平成10年2月5日に空中写真撮影を行い終了した。

5月11日より5月21日まで調査区南側の重機による表土剥ぎを行った。調査区以南についてはトレンチ調査を行ったが、湿地であり遺構・遺物が確認されなかったため、トレンチ位置の測量を委託し、終了した。7月1日より久保田1号古墳北側を重機により表土剥ぎを行い、7月5日から作業員による久保田1号古墳周溝、その他の遺構の検出作業を行うのと並行し、同月15日に基準点測量を委託した。現場の一部が冠水したため、8月31日から9月4日まで重機にて排水作業を行った。9月14日に久保田1号古墳北側・南側の空中写真撮影を委託した。同月18日に㈱バリノ・サーヴェイに久保田1号古墳周溝・調査区南の湿地・久保田1号古墳周溝内出土土壌内の土壌サンプル採取を委託し、分析を依頼した。同月9日に再度、久保田1号古墳北側・南側の空中写真撮影、久保田1号古墳南側の調査区は更に11月5日に空中撮影を委託し、同月9日に現地での調査を終了した。

久保田1号古墳に関しては、平成10年3月13日に墳丘地形測量を委託した。以後、久保田遺跡の調査と周溝の調査を並行して行い、10月12日に正面葺石の実測を委託、同月23日には重機にて東側周溝のトレンチ調査を行った。平成11年1月18日より南側周溝の調査を開始し、2月23日に空中撮影を委託、現地での作業を終了した。

骸魔王塚古墳は煙滅古墳と考えられていたが調査の結果、墳丘・周溝を検出した。よって平成10年2月18日に調査を開始した。測量に関しては3月4日に写真実測を行った。4月23日・5月1日に空中写真撮影を行い、5月15日に調査を終了した。

11年度は久保田1号古墳北側の道路部分の調査を行った。当初、古墳東側の倉庫は平成13年度に移転する予定であったが、移転先が決定し、11年度に調査することになった。7月12日より重機にて表土剥ぎを行い、同月22日より作業員による久保田1号古墳周溝、その他の遺構の検出作業を開始した。23日には拡張部の基準点測量を委託した。基準点については調査進行とともに設定し直し、この後11月24日・12月6日・平成12年2月14日・同月18日に基準点測量を委託している。また、調査区北側には表土が盛っており、調査が不可能であったが関係機関との調整により、前年度調査部分まで重機にて拡張することができた。12月10日・平成12年1月26日には久保田1号古墳周溝転石の状況の空中写真撮影を委託、2月28日に久保田1号古墳北側周溝の空中写真撮影を委託し、同月29日に現地での調査を終了した。

調査期間中、平成10年2月28日・4月25日・10月3日に現地での見学会を行い、平成11年2月24日から26日まで現地自由見学を行った。

整理作業は平成11年～13年度に行い、平成13年度に報告書刊行となった。また、木製品については平成10年10月1日に、吉田生物研究所に保存処理を依頼した。

### 3. 調査及び報告書記載の方法

報告書刊行にあたり、例言にも前述したように発掘調査時の遺構番号等をかなり変更する必要性が生じたため、以下記すこととする。

平成10年度調査発掘調査時にMC04 3-30 AAグリッドライン付近以北を久保田遺跡倭魔地籍（KBE）とし、さらに地番を付した。以南を久保田遺跡久保田地籍（KBT）として、倭魔地籍と同様、地番を付し調査した。平成11年度調査区は前例にならない倭魔地籍として調査した。遺構番号も地籍毎付けたため、同遺構に複数の番号があるという状況であった。よって整理作業時に於いて、矛盾と混乱を呈してしまった。本遺跡は、両方に更に広がっており、今後において調査する場合も、小範囲で遺構番号を付すことが大混乱を招くことは必定である。また、本遺跡は、地形的な連続性があり、敢えて地籍に分割する必要性は全く感じられないため、本報告書に於いては地籍に分割せず、遺構番号も連番で記載し、遺跡略号もKBTに統一することとした。なお倭魔王塚古墳・久保田1号古墳については略号をそれぞれEMOK・KBT1Kとし、各古墳の周溝名については、「集落編」に於いては仮称とし、「古墳編」での名称を最終決定とする。

遺構番号対照表

変更前		変更後	備考
KBE943-1	SB01	KBT SB01	
KBE946-3	SB02	KBT SB02	
KBE946-3	SB03	欠番	
KBE946-3	SB04	KBT SB04	
KBE946-3	SB05	KBT SB05	
KBE946-3	SB06	KBT SB06	
KBE946-3	SB07	KBT SB07	
KBE946-3	SB08	KBT SB08	
KBE946-3	SB09	KBT SB09	
KBE946-3	SB10	KBT SB10	
KBE943-1・946-3	SB11	KBT SB11	
KBE943-1	SB12	KBT SB12	
KBE943-1	SB13	KBT SB13	
KBE943-1	SB14	KBT SK16	
KBE948	SB15	KBT SB15	
KBE943-1	SB16	KBT SB16	
KBE955	SB17	KBT SB17	
KBE955	SB18	KBT SB18	
KBE955	SB19	KBT SB19	
KBE955	SB20	KBT SB20	

変更前		変更後		備考
KBE955	SB21	KBT	SB21	
KBE955	SB22	欠番		
KBE953-3	SB23	KBT	SB23	
KBE946-3	ST01	KBT	ST01	
KBE946-3	ST02	KBT	ST02	
KBE946-3	ST03	KBT	ST03	
KBE946-3	ST04	KBT	ST04	
KBE943-1	ST05	KBT	ST05	
KBE955	ST06	KBT	ST06	
KBT891	ST01	KBT	ST07	
KBE946-2	SM01	KBT	SM01	
KBE948	SM02	KBT	SM02	
KBE946-1・955	SM03	KBT	SM03	
KBE943-1・955・946-2・946-3	SD01	KBT	SD01	
KBE946-1・946-2	SD02	KBT	SD02	
KBE943-2・946-2・946-3	SD03	KBT	SD03	
KBE946-3	SD04	KBT	SD04	
KBE943-1	SD05	仮称熊鷹玉塚古墳周溝2 (以下、仮称溝)		
KBE943-1	SD06	KBT	SD06	
KBE943-1	SD07	KBT	SD07	
KBE943-1	SD08	KBT	SD08	
KBE946-2	SD09	欠番		
KBE946-2	SD10	欠番		SM01南東溝・SM02(03か)北西溝を 当初SD10としたので欠番
KBE946-2	SD11	KBT	ST11	
KBE955	SD12	仮称久保田1号古墳周溝2 (以下、仮称溝)		旧KBE955SD13と同一
KBE955	SD13	仮称久保田1号古墳周溝2		旧KBE955SD12と同一
KBE955	SD14	仮称久保田1号古墳周溝4		
KBE955・953-3	SD15	仮称久保田1号古墳周溝3		旧KBT891・895-1SD02と同一
KBE955	SD16	仮称久保田1号古墳周溝1		
KBE955	SD17	KBT	SD17	
KBE955	SD18	KBT	SD18	
KBE955	SD19	KBT	SD19	
KBT891	SD01	仮称久保田1号古墳周溝4		
KBT891・895-1	SD02	仮称久保田1号古墳周溝1		旧KBE955・953-3SD15と同一
KBT891	SD03	KBT	SD20	
KBT891	SD04	KBT	SD21	
KBT891	SD05	KBT	SD22	
KBT891	SD06	KBT	SD23	
KBT891	SD07	KBT	SD24	
KBT891	SD08	KBT	SD25	

変 更 前		変 更 後		備 考
KBE943-6	SK01	KBT	SK01	
KBE943-6	SK02	KBT	SK02	
KBE946-3	SK03	KBT	SK03	
KBE946-3	SK04	KBT	SK04	
KBE946-3	SK05	KBT	SK05	
KBE943-1	SK06	KBT	SK06	
KBE943-1	SK07	KBT	SK07	
KBE943-1	SK08	KBT	SK08	
KBE955	SK09	KBT	SK09	
KBE955	SK10	KBT	SK10	
KBE955	SK11	KBT	SK11	
KBE943-1	SK12	KBT	SK12	
KBE943-1	SK13	KBT	SK13	
KBE943-1	SK14	KBT	SK14	
KBE943-1	SK15	KBT	SK15	
KBT891	SK01	KBT	SK17	
KBT891	SK02	KBT	SK18	
KBT891	SK03	KBT	SK19	
KBT891	SK04	KBT	SK20	
KBT891	SK05	KBT	SK21	
KBT891	SK06	KBT	SK22	
KBT891	SK07	KBT	SK23	
KBT891	SK08	KBT	SK24	
KBT891	SK09	KBT	SK25	
KBT891	SK10	KBT	SK26	
KBT891	SK11	KBT	SK27	
KBT891	SK12	KBT	SK28	
KBT891	SK13	KBT	SK29	
KBT891	SK14	KBT	SK30	
KBT891	SK15	KBT	SK31	
KBT891	SK16	KBT	SK32	
KBT891	SK17	KBT	SK33	
KBT891	SK18	KBT	SK34	
KBE955	SI01	KBT	SI01	
KBE891	SI02	KBT	SI02	
KBE891	SI03	KBT	SI03	
KBE891	SI04	KBT	SI04	
KBT891	SI01	KBT	SI05	
KBE891	SX01	削除		
KBE953-3	SX02	久保田1号古墳周溝3に包括		
KBE953-3	SX03	久保田1号古墳周溝3に包括		
KBE943-1	SX04	削除		
KBT891	SX01	SD25に包括		

#### 4. 調査組織

##### (1) 調査団

調査主体者	飯田市教育委員会 教育長 小林恭之助（～平成11年12月）					
	教育長 富田 泰啓（平成11年12月～）					
調査員	佐々木嘉和	吉川 豊	（～平成10年度）	山下 誠一	（～平成10年度）	
	西山 克己	（平成10年度）		藤原 直人	（平成11・12年度）	
	遊谷恵美子	（平成11年度～）		吉川 金利	下平 博行	伊藤 尚志
	福澤 好晃	（～平成12年度）		坂井 勇雄	羽生 俊郎（平成13年度～）	
作業員	新井 幸子	新井ゆり子	池田 幸子	市瀬 長年	伊藤 和恵	
	伊藤 孝人	伊東 裕子	井上 恵資	牛山きみゑ	尾曾ちぶき	
	金井 照子	唐沢古千代	北川 彰	北沢 一嘉	北澤 兼男	
	吉地 武虎	木下 貞子	木下 早苗	木下 傳	木下 義男	
	木下 力弥	木下 玲子	熊崎三代吉	小池千津子	小平 晴美	
	小平まなみ	小林 定雄	小林 千枝	小林 正人	斉藤 徳子	
	榑原 政夫	榑山 修三	佐々木一平	佐々木文茂	佐々木真奈美	
	佐々木美千枝	佐藤知代子	塩沢 澄子	斯波 幸枝	清水 三郎	
	清水 恒子	下田英美子	代田 和登	杉山 春樹	関島真由美	
	高木 純子	高橋 恭子	高橋セキ子	滝上 正一	竹村 和子	
	竹村 定満	竹本 常子	橋 千賀子	田中 薫	田中 博人	
	塚原 次郎	筒井千恵子	中沢 温子	中島 育子	仲田 昭平	
	中田 恵	中平けい子	中平 隆男	中野満里子	中野 充夫	
	中村地香子	仲村 信	西野 武司	西野やすみ	服部 光男	
	林 員子	林 悟史	林 勢紀子	林 伸好	林 ひとみ	
	原 昭子	久田きぬゑ	久田 誠	樋本 直子	平栗 陽子	
	福沢 育子	福沢 幸子	藤本 宏	牧内 修	牧内喜久子	
	牧内 八代	牧ノ内昭吉	松井 明治	松下 成司	松下 博子	
	松下 光利	松島 保	松島 直美	松本 恭子	三浦 厚子	
	三浦 照夫	南井 規子	宮内真理子	森藤美知子	森山 律子	
	森山 昭吉	山田 康夫	吉川 悦子	吉川 和夫	吉川紀美子	
	吉澤佐紀子					



(2) 事務局

飯田市教育委員会

教育長 小林恭之助 (～平成11年12月)

富田 肇啓 (平成11年12月～)

教育次長 関口 和雄 (～平成11年度)

久保田裕久 (平成12年度～)

博物館課 (～平成12年度)

生涯学習課 (平成13年度～)

小畑伊之助 (博物館課 課長 ～平成11年度)

米山 照美 (博物館課 課長 平成12年度)

中島 修 (生涯学習課 課長)

小林 正春 (博物館課 埋蔵文化財係長) (生涯学習課 文化財保護係)

吉川 豊 (博物館課 埋蔵文化財係 ～平成10年度)

山下 誠一 ( " " )

馬場 保之 (博物館課 埋蔵文化財係) (生涯学習課 文化財保護係)

澁谷恵美子 (博物館課 埋蔵文化財係 平成11年度～) (生涯学習課 文化財保護係)

吉川 金利 (博物館課 埋蔵文化財係) (生涯学習課 文化財保護係)

下平 博行 ( " " ) ( " " )

伊藤 尚志 ( " " ) ( " " )

福澤 好晃 ( " " )

坂井 勇雄 ( " " 平成11年度～) (生涯学習課 文化財保護係)

羽生 俊郎 (生涯学習課 文化財保護係 平成13年度～)

今村 進 (博物館課 庶務係長)

牧内 功 ( " 庶務係 ～平成10年度)

松山登代子 (博物館課 庶務係 平成11年～平成12年度)

高田 清 (学校教育課 総務係長 平成13年度～)

宮田 和久 (学校教育課 総務係 平成13年度～)

福沢 恵子 (学校教育課 総務係 平成13年度～)

## II 遺跡の環境

### 1. 自然環境

久保田遺跡の所在する飯田市川路地区は、長野県の南端を併走する伊那山脈・木曽山脈の間に広がる伊那盆地の最南端にあたり、飯田市街地から南に約8kmの天竜川右岸に位置する。川路地区はこの天竜川と、西側から天竜川に注ぐ久米川、南の弟川によって挟まれた面積およそ6.16km<sup>2</sup>の地域である。

天竜川は狭窄部である天竜峡によってその流れを阻まれ、川路地区で大きく迂回する。このため、天竜川氾濫原が地区の大半を占め、周囲は標高450m～550mの低い丘陵に囲まれている。国道より西側は比高差30m程度で低位段丘Ⅰの桐林面あるいは伊久間面に相当する段丘面の翠原・藤治ヶ峰・上平・祐宜屋原・初ノ免・藤塚・大明神原に続く。これら数段の段丘面を東西へ分断するように、北から久米川・相沢・留々女川・南沢・祐宜屋沢・観音沢・大畑沢・初沢・弟川の小河川が天竜川に注ぎ、削られた段丘はV字状の谷や洞地形を形成している。

川路地区の地形は天竜川の流路と共に大きく変化している。天竜峡の狭窄部は時として天竜川の水流を妨げる障害となり、狭窄部の上流である川路・竜丘・龍江地籍で東西に迂回を繰り返したと推定されている。伝承・絵図類を基に天竜川の移動を推定した「川路村史」によると、16世紀代には時又島地籍から2本に分流し、本流は元JR川路駅付近まで弧状に迂回し、井戸下遺跡付近で合流して天竜峡に流入し、17世紀初頭には本流部分が島地籍から天伯岩付近へ西に弧状に迂回し、17世紀中頃にはこの中州部分利用のため河川改修がなされ、時又からはほぼ一直線に天伯岩の左側が流路となったと推定されている。また、明治44年陸地測量部の地図によると、天竜川は久米川合流点で二股に分かれ、本流は川路側を留々女川合流点まで一直線に流れ、その後東側に大きく迂回し龍江側から天竜峡に流れ込む。支流は留々女川から弧状に川路側を流れ、天竜峡付近で本流と合流している。昭和12年に完成した下流の泰阜ダムは河床の上昇の一因となり、昭和31年の川路村図では一転して天伯岩西側が本流となり、天竜峡に流れ込んでいる。このように天竜川の水は、自然営力・人為的作用により次第に変化しており、かつ昭和36年の災害後、土砂の堆積・河川改修・土地改良等の要因により川路地区の最低位段丘面の有無は不明となっていた。しかし、明治44年測量図によると、当時の天伯岩北側での河床標高は360m以下(現363m前後)で、旧川路村役場東側から天竜川川岸までの間に小段丘が2段階程度認められ、低位段丘Ⅱに比定される段丘面が存在した可能性が極めて高い。

### 2. 歴史的環境

川路地区の地形は、天竜川に面する最低位段丘と、桐林面に相当する標高400m以上の低位段丘面に大別される。特に最低位段丘面には前方後円墳の久保田1号古墳(B)をはじめ多数の古墳があり、飯田市内でも有数の古墳集中地帯となっている。また、隣接する上川路地区には白鳳期の瓦が出土する開善寺・重要文化財の四仏四獣鏡が出土した御猿堂古墳(1)など古墳時代から奈良時代にかけての主要な遺跡が集中する地帯である。こうした遺跡を中心に時代毎の遺跡の概観を行い、川路地区の歴史の変遷を追ってみたい。

### 1) 縄文時代

川路地区に人々が生活した痕跡を残したのは縄文時代に始まる。月の木遺跡(2)からは、縄文時代前期前半の住居址が確認され、周辺に当該期の大集落が存在する可能性がある。また、久米川南岸の今洞遺跡(3)からは縄文時代前期後半の住居址が確認されている。両遺跡とも、調査面積・遺跡の状態から大規模な集落の存在は確認されていない。

縄文時代中期になると遺跡は低位段丘面上が中心になる。川路地区の南端に位置する川路大明神原遺跡(4)では、中期初頭から後葉にかけての30軒を越す集落が確認されており、拠点的な大規模集落が形成されていたと考えられる。同一段丘上の初ノ免遺跡(5)・藤塚原遺跡(6)でも縄文時代中期と考えられる遺物が表採されている。

縄文時代後期・晩期は生活の舞台としての川路は不明瞭となり、遺跡数も少なく、断片的な資料のみである。今洞遺跡からは浮線縄文の施された水Ⅰ式土器が出土しているが、当該期の遺構は確認されていない。これは、川路地区の縄文時代全般を通じ遺跡の立地は段丘上に多く見られるものの、全国的な傾向として縄文時代後期・晩期は遺跡が水場に近い低地に進出し、河川を積極的に利用していることから、不明瞭な最低位段丘面に同時期の遺跡が存在する可能性が高い。

### 2) 弥生時代

弥生時代に入ると、段丘上の東原遺跡(7)で住居址が1軒、治水対策事業に伴う発掘調査で殿村遺跡(8)より、後期の住居址が確認されているものの、断片的な資料が多く、集落の存在も不明瞭であった。しかし井戸下遺跡(9)からは弥生時代中期から後期にかけての集落の一部が確認され、同様な標高に集落が多数存在する可能性を示している。

### 3) 古墳時代

古墳時代に入ると地区内に多くの古墳が築造される。久保田1号古墳(前方後円墳)をはじめ地区内には48基の古墳が確認されている。古墳は花御所地籍・久保田1号古墳周辺・月の木地籍に集中しており、古墳群を形成している。その立地は久保田1号古墳周辺の古墳を除き、低位段丘面に位置している。こうした古墳の多くは破壊され、地区内に多くの出土品が伝えられている。井戸下遺跡の北西側の山麓にある花御所1号古墳(10)からは金銅製の馬具類・玉類等の豊富な出土品が知られている。また下辻古墳(11)は全長8.8mの横穴式石室を有し、馬具類・玉類等の出土品がある。井戸下遺跡北西側の最低位段丘面にあった殿村1号墳(12)からは四獣鏡・素文鏡が出土している。井戸下遺跡に隣接する月の木古墳1号墳(13)は、かつて直刀4本の出土が伝えられていたが、治水対策事業に伴う発掘調査で、木棺を有する主体部3基が確認され、内1基からは横矧板紙短甲・直刀・鉄鏃等出土し、別の主体部からは胡録に入った状態での鉄鏃等重要な資料が出土している。また月の木7号墳(14)では小規模な石棺状の石室が確認され、8世紀代に下る可能性がある。この他、調査成果からは月の木古墳群全体で7基の古墳が確認されており、5世紀後半から6世紀を主体として8世紀近くまで造営されたと推定される。一方、古墳時代の集落は、治水対策事業に伴う発掘調査で、久保田遺跡(A)を始め、留々女遺跡(15)・辻前遺跡(16)・井戸下遺跡で大規模な集落が確認され、川路地区の最低位段丘面全体に生活の痕跡が残されている。

#### 4) 奈良・平安時代

奈良・平安時代の川路地区は断片的な資料のみで詳細は不明であったが、上川路には奈良時代と推定される布目瓦等出土した開善寺境内遺跡（17）があり、周辺に寺院の存在を窺わせる。川路地区では、治水対策事業で調査された久保田・留々女・辻前遺跡から平安時代の住居址などが確認されている。また、井戸下遺跡では奈良時代～平安時代と推定される水田址・溝址が確認されており、低位段丘面一帯に集落と水田が営まれていたと推定される。

#### 5) 中世

川路地区が文献上に現れるのは貞和2年（1346年）の三浦和田文書中の7月19日室町幕府下知状案である。これは当時、伊賀良庄地頭であった江間氏の族人江間尼浄元が庄内の中村・河路の2郷を開善寺（開善寺）に寄進し、それを新給人が承した旨の記載がある。また、織田氏の信濃攻略により開善寺から持ち出された梵鐘（現高遠町桂泉院に存在）には文和4年（1355年）の銘があり、その文中に伊賀良庄上河路郷の記載がある。こうした史料から室町時代には川路地区が上河路郷・下河路郷にわかれ、伊賀良庄に含まれていたと考えられる。また康永3年（1344年）小笠原貞宗謙状の中に伊賀良庄が記載されており、室町時代には小笠原氏が川路地区を領有していたことがわかる。その後武田氏の伊那侵略後、天正7年（1579年）の上諏訪造営帳に伊賀良庄内の役銭納入状況が記されており、その中に上河路郷・下河路郷等の記載が見られる。このように川路地区は伊賀良庄の一郷として文献に記されている。河路郷の詳細は不明であるが、井戸下遺跡からは14世紀代から15世紀代にかけての屋敷跡が確認されており、留々女遺跡でも同時期の掘立柱建物址群が検出されている。こうした成果から河路郷の集落の実態が判明するものと思われる。集落の他に井戸下遺跡北西側の城山には、尾根を利用した山城が確認されている。伝承等もなく、詳細は不明な点が多いが戦国期の山城と推定されている。また月の木地籍には「じょうばた」・「おもてきど」・「ほり」等の地名が残されていることから「幾島城」（18）と伝えられてきた。しかし治水対策工事での発掘調査では城郭の痕跡等は確認されていない。

以上遺跡を中心に川路地区の歴史を概観したが、今次調査を始め治水対策に先立つ発掘調査で確認された成果により、詳細な歴史が判明すると思われる。

### Ⅲ 調査結果

今次調査に於いて検出された遺構は、以下のとおりである。

・堅穴住居址 (SB)	23棟	・掘立柱建物址 (ST)	7棟
・方形周溝墓 (SM)	3基	・溝址 (SD)	17条
・土壇・抗 (SK)	34基	・集石 (SI)	4基
・ピット			

#### 1. 基本層序 (第4図)

調査区北部・中部・南部の土層を示した。調査時に基本層序として土層実測したものがなく、遺構の土層断面実測図より抽出したものである。よって各地点での共通の見識はない。I層の耕土のみ各共通の土層とした。遺構検出面は調査区各地点で異なりA地点付近ではⅢ層の下層、B地点付近ではⅡ・Ⅲ層の下層、C地点付近ではⅡ・Ⅳ層の下層である。各土性を見ると砂質の土壌であることがわかる。これは前述したようにこの地区が幾多の洪水にあったためであると考えられる。

#### 2. 遺構

##### (1) 堅穴住居 (SB)

###### ① SB01 (第6図)

検出位置	AD13	覆土	
切合	切れる SB05	床面	たたき状に堅く良好
切られる		住居内	主柱穴 P1~P4
プラン	隅丸方形	貯蔵穴	
規模	規模 m 4.3×4.2	入口	
主輪	N35° W	炉形	状 枯土甕
壁高	cm 37	規模	cm 150×110
壁状態	ほぼ垂直	竈	特記事項
出土遺物	(第32図) 床面上から出土		
環・甕・甌			
特記事項			
時期	古墳時代後期	根拠	出土遺物

###### ② SB02 (第7図)

検出位置	AJ10	覆土	4層
切合	切れる SD01	床面	全体に砂層で極めて不良
切られる		住居内	主柱穴 不明
プラン	不明	貯蔵穴	
規模	規模 m 4.3×-	入口	
主輪	不明	炉形	状
壁高	cm 35	規模	cm
壁状態	ほぼ垂直	竈	特記事項
出土遺物	(第32図) 覆土中から出土		
環・高環			
特記事項			
時期	古墳時代後期	根拠	出土遺物

③SB04 (第8図)

検出位置	AB20	覆土	5層	
切合	切られる SD03	床面	全体に散らかく不良	
切られる	SB01	住主柱穴	なし	
規模・形状	プラン	隅丸方形	貯蔵穴	
	規模	m 5.3×5.2	入口	
	主軸	N91° W	炉・竈	
	壁高	cm 39	形状	石芯粘土電
	壁状態	ほぼ垂直	規模	cm 100×70
出土遺物	(第32図) 床面上から出土	電付近に比較的まとまる		
須恵器	環・甕・灰釉陶器	短頸壺		
特記事項				
時期	奈良末～平安時代	根拠	出土遺物	

④SB05 (第7図)

検出位置	AD14	覆土	6層	
切合	切られる	床面	全体に散らかく不良	
切られる	SB01	住主柱穴	不明	
規模・形状	プラン		貯蔵穴	
	規模	m 3.4×-	入口	
	主軸	不明	炉・竈	
	壁高	cm 37	形状	
	壁状態	ほぼ垂直	規模	cm
出土遺物	(第32図)	電	特記事項	
ミニチュア土器				
特記事項				
時期	不明 古墳時代か	根拠	出土遺物	

⑤SB06 (第7図)

検出位置	BY17	覆土	2層	
切合	切られる	床面	一部たたき状	
切られる	SB12・SD04・EMOK周溝2	住主柱穴	P1～P4	
規模・形状	プラン	方形	貯蔵穴	
	規模	m 8.3×8.3	入口	
	主軸	N55° W	炉・竈	
	壁高	cm 46	形状	
	壁状態	ほぼ垂直	規模	cm
出土遺物	(第33図) 床面上より出土	電	特記事項	
須恵器	蓋環・環・甕			
特記事項				
時期	古墳中期後半～後期	根拠	出土遺物	

⑥SB07 (第9図)

検出位置	AE22	覆土	1層	
切合	切られる	床面	全体に散らかく不良	
切られる	SB08	住主柱穴	なし	
規模・形状	プラン	(方形)	貯蔵穴	
	規模	m 3.4×-	入口	
	主軸	N167° W	炉・竈	
	壁高	cm 23	形状	石芯粘土電
	壁状態	ほぼ垂直	規模	cm 66×60
出土遺物	(第33図)	電	特記事項	
須恵器				
特記事項				
時期	古墳時代後期	根拠	住居址形態	

⑦SB08 (第9図)

検出位置	AF22	覆	土	1層
切合	切れる	床	面	全体に軟らかく不良
切られる	SB07・SK15	住	主柱穴	なし
プラン	(隅丸方形)	居	貯蔵穴	
規模	m 5.0×4.2	内	入口	
主軸	N88° W	施	炉形状	石芯粘土竈
壁高	cm 23	設	竈規模	cm 50×49
壁状態	ほぼ垂直		竈特記事項	
出土遺物	(第33・34図) 覆土及び床面上から出土 竈付近に比較的多い			
特記事項	須恵器環・甕・須恵器壺			
時期	平安時代	根拠	出土遺物	

⑧SB09 (第10図)

検出位置	BW19	覆	土	2層
切合	切れる	床	面	たたき状に堅く比較的良好
切られる		住	主柱穴	P1~P4
プラン	方形	居	貯蔵穴	
規模	m 6.4×5.9	内	入口	
主軸	N38° W	施	炉形状	地床炉
壁高	cm 20	設	竈規模	cm 120×118
壁状態	ほぼ垂直		竈特記事項	
出土遺物	(第34図) 覆土中から出土			
特記事項	須恵器器環・甕・須恵器 ・ミニチュア土器			
時期	古墳時代中期後半	根拠	出土遺物	

⑨SB10 (第10図)

検出位置	BX25	覆	土	2層
切合	切れる	床	面	全体に軟らかく不良
切られる		住	主柱穴	P1~P4
プラン	隅丸方形	居	貯蔵穴	
規模	m 4.2×3.6	内	入口	
主軸	N43° W	施	炉形状	地床炉か
壁高	cm 30	設	竈規模	cm
壁状態	ほぼ垂直		竈特記事項	
出土遺物	(第34図) 床面上から出土			
特記事項	環・高環・甕			
時期	古墳時代中期後半	根拠	住居址形態・出土遺物	

⑩SB11 (第11図)

検出位置	AA10	覆	土	3層
切合	切れる	床	面	中央部はたたき状に堅く良好 壁際は軟らかい
切られる		住	主柱穴	P1~P4
プラン		居	貯蔵穴	
規模	m 5.0×4.6	内	入口	
主軸	N53° W	施	炉形状	粘土竈
壁高	cm 20	設	竈規模	cm 109×108
壁状態	ほぼ垂直		竈特記事項	
出土遺物	(第34図・35図) 覆土中から出土			
特記事項	環・高環・甕・鉢・瓶			
時期	古墳時代後期	根拠	出土遺物	

⑪SB12 (第11図)

検出位置	BV16	覆土	
切合	切られる	床面	全体に軟らかく不良
切られる	SD05	住主貯蔵穴	不明
プラン	(隅丸方形)	居内施設	
規模	規模 m 4.3×-	炉・竈	
主軸	N34° W	形状	石芯粘土竈
壁高	cm 29	規模	cm 115×54
壁状態	やや緩やか	特記事項	
出土遺物	(第35・36図) 覆土中から出土		
環・甕			
特記事項			
時期	古墳時代後期	根拠	出土遺物

⑫SB13 (第12図)

検出位置	AH07	覆土	
切合	切られる	床面	たたき状に堅く良好
切られる	SD01	住主貯蔵穴	不明
プラン	不明	居内施設	
規模	m -×-	炉・竈	
主軸	不明	形状	
壁高	cm 13	規模	cm
壁状態	ほぼ垂直	特記事項	
出土遺物	(第36図)		
環・甕			
特記事項			
時期	古墳時代後期	根拠	出土遺物

⑬SB15 (第12図)

検出位置	AW16	覆土	
切合	切られる	床面	全体に軟らかく不良
切られる		住主貯蔵穴	なし
プラン	隅丸方形	居内施設	
規模	規模 m 3.6×3.5	炉・竈	
主軸	不明	形状	
壁高	cm 35	規模	cm
壁状態	ほぼ垂直	特記事項	
出土遺物	(第36図) 覆土中から出土		
環・甕	高環・甕		
特記事項	掘り方まで掘り下げた可能性が高い		
時期	古墳時代中期後半	根拠	出土遺物

⑭SB16 (第12図)

検出位置	BX11	覆土	
切合	切られる	床面	不明
切られる		住主貯蔵穴	不明
プラン	不明	居内施設	
規模	規模 m 不明	炉・竈	
主軸	不明	形状	土器埋設炉
壁高	cm 不明	規模	cm (44)×36
壁状態	不明	特記事項	
出土遺物			
環・甕			
特記事項			
時期	弥生時代中期	根拠	調査所見より



⑬SB17 (第12図)

検出位置	AS25	覆土	6層
切れる		床面	たたき状に良好
切られる	KBT1K周溝2	住主柱穴	P1~P4
プラン	(隅丸方形)	居貯蔵穴	
規模	m 4.0×-	内入口	
主輪		炉形状	地床炉か
壁高	cm 22	炉・電規模	cm
壁状態	やや緩やか	電特記事項	
出土遺物	(第36図) 覆土中から出土		
環・高環・壘・壘			
特記事項			
時期	古墳中期後半	根拠	住居址形態・出土遺物

⑭SB18 (第13図)

検出位置	AT21	覆土	土
切れる		床面	貼り床で中心部はたたき状に堅く良好 全体とすると不良
切られる		住主柱穴	P1~P4
プラン	隅丸方形	居貯蔵穴	
規模	m 4.7×4.3	内入口	
主輪		炉形状	粘土電
壁高	cm 18	炉・電規模	cm 98×80
壁状態	ほぼ垂直	電特記事項	
出土遺物	(第36・37図) 床面上から出土		
環・須恵器蓋環・高環・壘			
特記事項	床面の把握でやや陥りすぎた可能性がある		
時期	古墳時代後期	根拠	出土遺物

⑮SB19 (第13図)

検出位置	AW26	覆土	3層
切れる		床面	部分的にたたき状に堅い 全体的に不良
切られる		住主柱穴	P1~P4
プラン	隅丸方形	居貯蔵穴	
規模	m 3.5×3.4	内入口	
主輪	N48° W	炉形状	電:粘土電 炉:地床炉
壁高	cm 12	炉・電規模	cm 電:100×146 炉:42×40
壁状態	やや緩やか	電特記事項	
出土遺物	(第37図)		
環・高環・壘			
特記事項	炉址と電が併設される電導入期の住居址		
時期	古墳時代後期	根拠	出土遺物

⑯SB20 (第12図)

検出位置	AS28	覆土	土
切れる		床面	柔らかく不良
切られる	KBT1K周溝2・ST06	住主柱穴	不明
プラン	不明	居貯蔵穴	
規模	m -×-	内入口	
主輪	不明	炉形状	
壁高	cm 11	炉・電規模	cm
壁状態	ほぼ垂直	電特記事項	
出土遺物	(第38図)		
高環			
特記事項			
時期	古墳時代	根拠	

㊦ S B 21 (第14図)

検出位置	AW30	覆土	2層
切れる		床面	たたき状に堅く良好
切られる	ST06	住主柱穴	P1~P4
プラン	(隅丸方形)	居貯蔵穴	
規模 m	5.0×-	人形	
主軸	N52° W	伊形状	粘土葺
壁高 cm	18	・窠	規模 cm 135×75
壁状	やや垂直	設	特記事項
出土遺物	(第38図)		
特記事項	須恵器蓋環・環・高環・須恵器高環・甕・紡錘車		
時期	古墳時代後期	根拠	出土遺物

㊦ S B 23 (第14図)

検出位置	BX05	覆土	2層
切れる		床面	
切られる		住主柱穴	不明
プラン	不明	居貯蔵穴	
規模 m	-×-	人形	
主軸	不明	伊形状	
壁高 cm	27	・窠	規模 cm
壁状	やや緩やか	設	特記事項
出土遺物	小破片		
特記事項			
時期	古墳時代	根拠	住居址形態・周辺の遺構の状況

(2) 掘立柱建物址 (S T)

No.	図No.	検出位置	規模(梁行×桁行)m	柱間m	覆土	時代・時期	出土遺物	備考
1	15	AI16	6.4×4.2	梁1.0~2.3 桁1.0~1.6	2層	古墳時代か	柱穴より弥生土器片・土師器片	
2	15	AM13	(4.5)×(4.0)	梁1.3~3.2 桁1.5~2.4	1層	古墳時代か	柱穴より土師器片	
3	16	AH17	6.0×2.9	梁1.0~1.3 桁1.0~1.3	1層	古墳時代か	柱穴より土師器片	
4	16	AJ16	(-)×(-)	(1.7)		古墳時代か	柱穴より土師器片	
5	16	BW09	5.7×5.1	梁1.3~1.6 桁1.1~1.3		古墳時代か	柱穴より弥生土器片・土師器片	
6	17	AV27	7.8×7.5	梁1.4~1.6 桁1.3~1.7	7層	古墳時代か	柱穴より土師器片	
7	17	B J 39	-×-	梁6.50 桁4.50	2層	不明	なし	

## (3) 方形周溝墓 (SM)

## ① SM01 (第18回)

検出位置	BH26	主	規模m	不明
重複 周溝規模・形状	切る	主 体 部	主 軸	
	切られる		形 態	
	規 模m		覆 土	
	主 軸		施 設	
	形 態		土 橋	南東角か
	覆 土		墳 丘	不明
	幅cm		最大131最小47	そ の 他
深cm	最大37最小13			
断面形	U字型			
出土遺物		特記事項		
弥生土器片・土師器片		SM03と周溝を共有 新旧は不明		
時 期	弥生時代か	根 拠		

## ② SM02 (第19回)

検出位置	AY22	主	規模m	不明
重複 周溝規模・形状	切る	主 体 部	主 軸	
	切られる		形 態	
	規 模m		覆 土	
	主 軸		施 設	
	形 態		土 橋	南側角
	覆 土		墳 丘	不明
	幅cm		最大153最小85	そ の 他
深cm	最大42最小28			
断面形	U字型			
出土遺物		特記事項		
弥生土器片		SM03と周溝を共有 新旧は不明		
時 期	弥生時代か	根 拠		

## ③ SM03 (第20回)

検出位置	BB33	主	規模m	2.3×1.3
重複 周溝規模・形状	切る	主 体 部	主 軸	N55° W
	切られる		形 態	
	規 模m		覆 土	
	主 軸		施 設	
	形 態		土 橋	南東角と北西角か
	覆 土		墳 丘	不明
	幅cm		最大132最小67	そ の 他
深cm	最大53最小23			
断面形	逆台形			
出土遺物		特記事項		
弥生土器片・土師器片		SM01と周溝を共有 新旧は不明		
時 期	弥生時代か	根 拠		

## (4) 溝址 (SD)

SD No.	図 No.	検出位置	重複	規模(長×大横×大深) m(小横×小深)	主軸	覆土	時代・時期	出土遺物	備考
01	21	AI09	SB02・13に切られる	(29.5)×9.0×1.0 7.1×0.41	N20° W (北・南)	12層	不明	取土層は砂礫層・砂礫層・砂礫層・砂礫層	自然流路 全プラン未確認
02	22	AL15	SD03・ST02を切る	(20.5)×3.3×0.55 2.1×0.29	N60° W (北・南)	5層	不明	土師器片・須恵器 甕・打製石斧・石鏃	自然流路
03	23	AI19	SB04・07・ST03に切られる SK15を切る	(67.5)×6.0×0.9 0.9×0.1	N10° W (北・南) N50° W (北東・南西)	8層	古墳時代 か	環・鉢・高環・甕・甕・甕・打製石斧・横刃型石器・有肩扇形状石器・釧打器	竊取を疑われる溝か、エレベーション付近から土師器多数に 見出し、長方形が埋められていた。 溝内底部が窪んでいたか。
04	24	AB15	SB06を切る	9.2×4.3×0.7 3.1×0.4	N35° E (北東・南西)	6層	不明		
06	24	BQ06	EMOK周溝2に切られる	(3.5)×0.8×0.3 0.5×0.1	N97° E (東・西)	2層	弥生時代 後期	高環・須恵器甕・ 須恵器高環	方形周溝帯の 可能性有り
07	24	BP08	EMOK周溝2に切られる	(4.4)×1.1×0.5 0.8×0.3	N85° E (東・西)	5層	弥生時代 後期	弥生後期土器片	SD08と対応して方形周溝帯の可能性有り
08	24	BS14	EMOK周溝2に切られる	(4.0)×1.2×0.3 0.8×0.1	N10° W (北・南)	3層	弥生時代 後期	弥生後期土器片	SD07と対応して方形周溝帯の可能性有り
11	24	BN27		(5.7)×0.8×0.3 0.5×0.1	N20° E (北・南) N50° E (北東・南西)	2層		弥生後期土器片	自然流路か
17	24	AT43		5.8×0.5×0.2 0.2×0.03	N80° E (東・西)	1層	不明		久保田1号古墳より新しい
18	24	AM20		(9.6)×0.6×0.2 0.2×0.03	N85° E (東・西) N3° W (北・南)	1層	不明		久保田1号古墳より新しい
19	24	AM22		4.6×0.4×0.4 0.1×0.03	N95° E (東・西) N10° E (北・南)	1層	不明		久保田1号古墳より新しい
20	25	BL01		(14.0)×2.4×0.4 1.2×0.03	N90° W (西・東)	1層	不明	土師器片	
21	25	BK03		(6.0)×0.9×0.3 0.6×0.1	N15° E (北東・南西)	1層	不明		
22	26	BJ49		(10.5)×2.4×0.7 1.4×0.4	N65° W (北東・南西)	1層	不明		
23	26	BJ44		(12.6)×1.8×0.3 1.1×0.1	N120° W (北西・南東)	1層	不明	土師器片	
24	25	BI38		(7.2)×2.3×0.6 1.2×0.2	N50° E (北東・南西)	1層	不明 不明	土師器片	
25	25	BI35		(5.0)×0.7×0.18 0.4×0.1	N5° E (北・南)	2層	不明	土師器片	石列を伴う

## (5) 土壇・坑 (SK)

SKNo	図No	検出位置	規模(長×短×深)cm	形態	覆土	時代・時期	出土遺物	備考
1	27	AJ12	146×72×27	楕円形	2層	不明		
2	27	AG14	239×66×13	長楕円形	1層	不明		
3	27	AG16	153×110×17	不整形	2層	不明		
4	27	AC22	215×188×10	方形	1層	不明	土師器片・縄文土器片	
5	27	AH12	229×130×20	円形	1層	不明		
6	27	BW09	(-)×166×15	不明	2層	不明	土師器片	SK07に切られる
7	27	BX09	221×174×14	楕円形	2層	不明	土師器片	SK06を切る
8	28	BS05	237×80×28	長方形	2層	不明	土師器片	
9	28	AU19	207×118×25	長方形	3層	不明		
10	28	AR36	121×(-)×46	不明		不明	土師器片	
11	28	AQ35	115×48×34	長楕円形		不明	土師器片	
12	28	BX15	47×42×7	円形	2層	中近世か		骨片が出土しているため火葬墓と考えられる
13	28	BX13	40×35×15	円形	2層	中近世か		骨片が出土しているため火葬墓と考えられる
14	28	BX13	35×31×6	円形	1層	中近世か		骨片が出土しているため火葬墓と考えられる
15	28	AE20	150×(-)×40	不明		不明		SB08・SD03に切られる
16	28	BR11	260×160×84	方形	8層	不明	土師器片	袋状
17	28	BL05	71×50×28	楕円形		不明	土師器片	
18	28	BL08	75×63×51	楕円形		不明		
19	29	BM06	58×43×13	不整長方形		不明	土師器片	
20	29	BL07	83×26×26	不整長方形		不明	土師器片	
21	29	BM07	43×38×18	長方形		不明		
22	29	BL05	60×40×39	不整楕円形		不明		
23	29	BL04	94×37×46	不整楕円形		不明		
24	29	BM05	73×62×18	不整円形		不明		
25	29	BL03	155×88×46	不整形		不明		SD03に切られる
26	29	BI43	75×59×12	楕円形		不明		
27	29	BH44	184×40×19	不整長方形		不明		
28	29	BH49	112×76×24	不整楕円形		不明		
29	29	BH47	70×68×30	円形		不明		
30	29	BI03	225×200×49	不整円形		不明	土師器片・須恵器片	
31	29	BK44	84×54×37	楕円形		不明		
32	30	BH40	-×-×35(54)	-		中近世か	中世陶磁器	東側覆土に削られる。SK内に別Pあり。石あり。
33	30	BI40	64×56×17	不整長方形		中近世か	中世陶器	
34	30	BJ39	(315)×(300)×44	不整円形		中近世か	播鉢	

## (6) 集石 (S1)

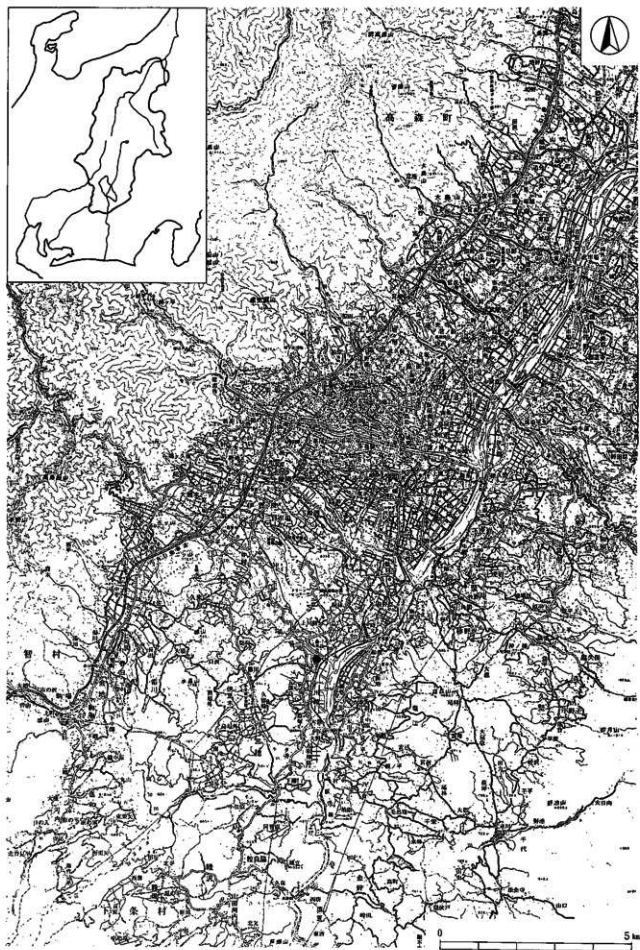
SKNo	図No	検出位置	規模(長×短×深)cm	形態	覆土	時代・時期	出土遺物	備考
1	31	A K31	140×138×56	円形		不明	土師器片	KBT1周溝3内集石
2	31	A K30	77×66×(-)	不整形		不明		KBT1周溝3内集石
3	31	A K30	56×44×(-)	不明		不明		KBT1周溝3内集石
4	31	A J30	61×61×(-)	不明		不明		KBT1周溝3内集石
5	31	B F02	190×178×80	円形		不明		SD01を切る



圖 版





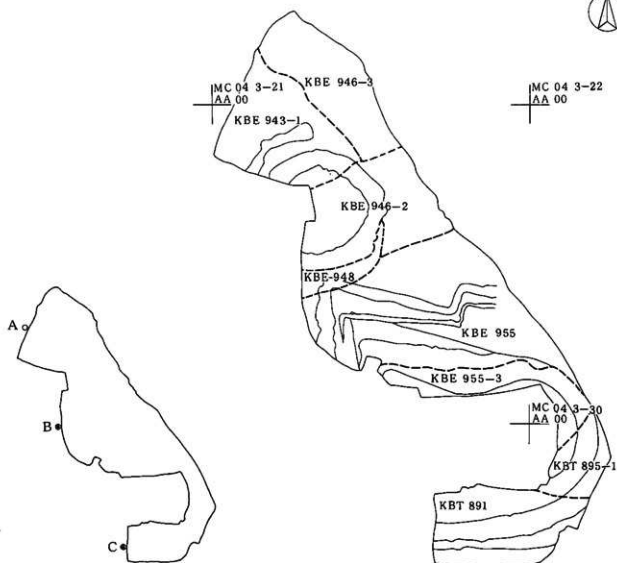


第1図 久保田遺跡・久保田1号古墳・綾魔王塚古墳位置図



第2図 周辺遺跡位置図





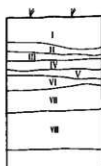
377.00

376.00

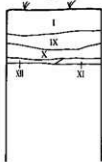
375.00

374.00

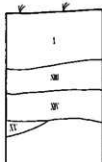
A



B



C



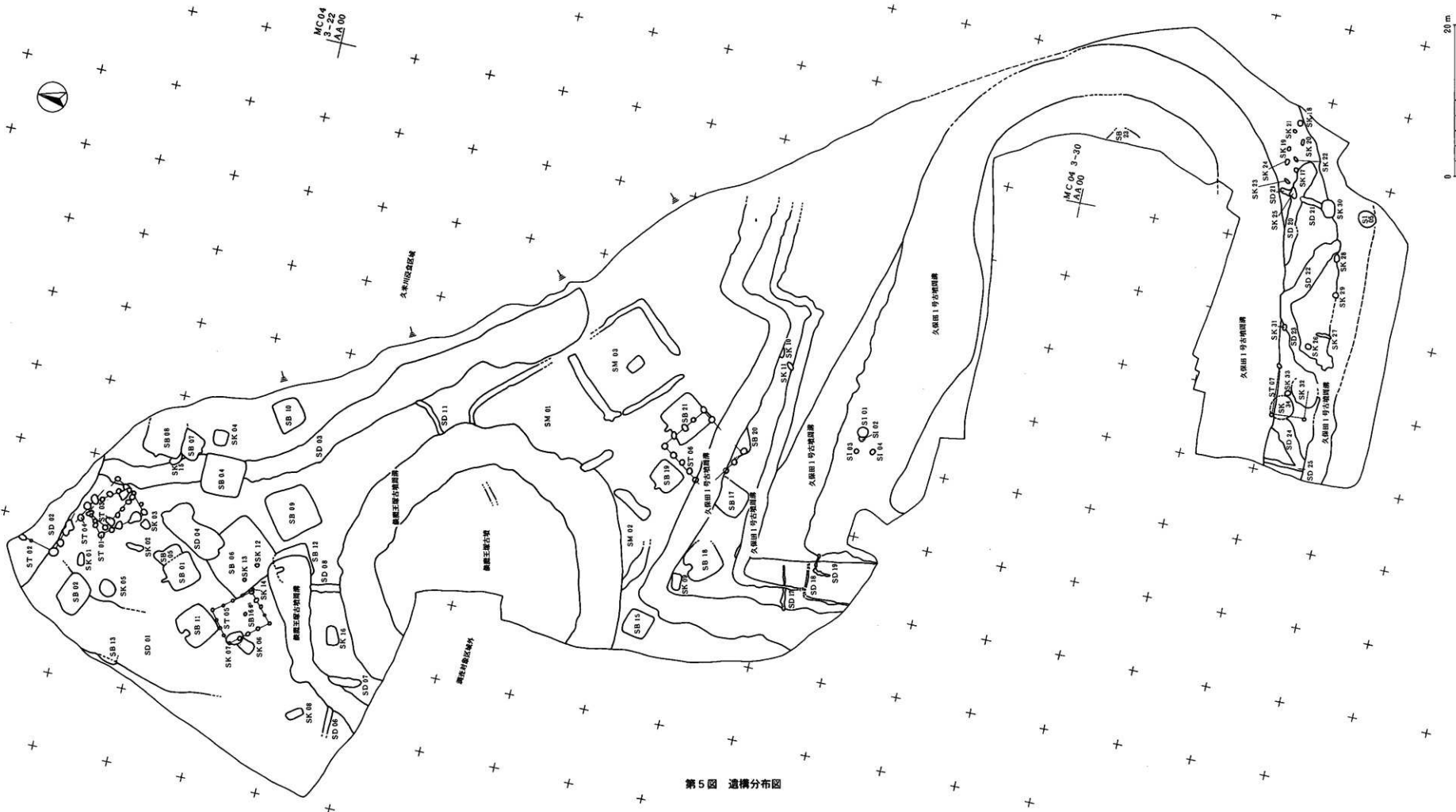
0 1m

- I 壤土
- II 10YR 5/1 褐灰土
- III 10YR 5/1 鉄分沈殿
- IV 10YR 4/1 褐灰土
- V 10YR 4/1 鉄分沈殿
- VI 10YR 3/1 灰褐色土 SIL
- VII 10YR 4/3 赤い黄褐色土 S
- VIII 10YR 3/3 暗褐色土 SIL

- IX 10YR 4/2 灰黄褐色土
- X 10YR 4/2 灰黄褐色土
- XI 10YR 3/1 暗褐色土
- XII 10YR 2/1
- III 10YR 4/1 褐灰土-4/2 灰黄褐色土 SIL+S  
粘性は強く、餅りは有る、マンガンの凝縮が多く入り、又、黄色鉄粒が、ごくわずかに入る。  
全体に細2-入程度の餅が多く入る

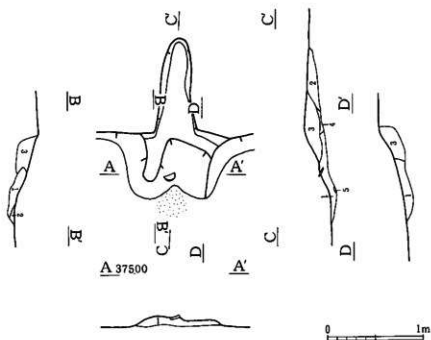
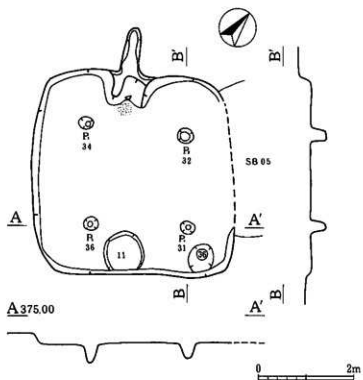
- IV 10YR 4/1 褐灰土-3/1 灰褐色土 SIL+S  
厚3-5cm次の餅が多く、びっしりと入り、全体的に凝縮時に近い
- V 10YR 5/1 灰土 SIL+S  
粘性は強く、餅りは強い、全体にマンガンの凝縮が非常に多く入り、このマンガンを (7.5YR 3/2) が目につく全体に餅が多く入り、硬餅の (厚3-10cm大餅)

第4図 発掘調査地籍・地番割図、基本層序



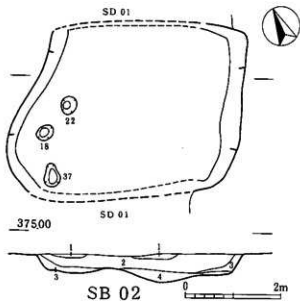
第5図 遺構分布図



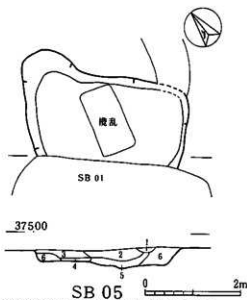


1. 暗褐色土 (10YR 3/3.5L) に焼上、灰が混じる
2. 黒褐色土 (10YR 3/2.5L)
3. 黒褐色土 (10YR 3/2.5L) にわずかに、濃い黄褐色土 (10YR 5/4) が混じる
4. 黄褐色土 (10YR 3/2.5L) に、暗褐色土 (10YR 3/3) 、焼土が混じる
5. 焼土

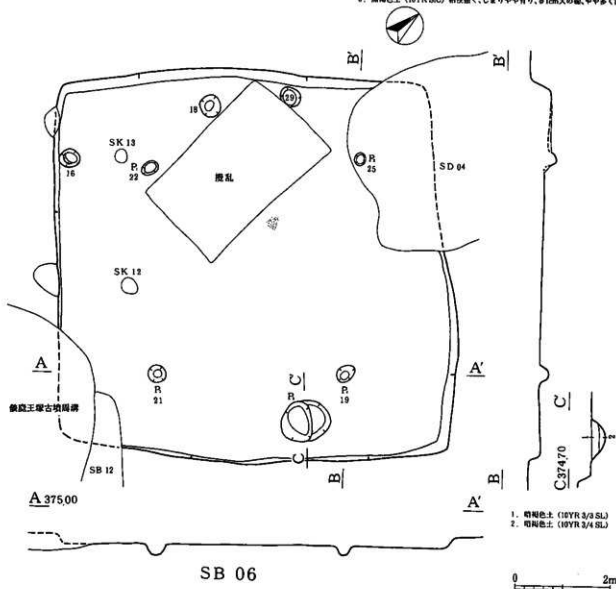
第6図 SB 01



1. 黒褐色土 (10YR 3/1 SL) 石が埋める
2. 黒褐色土 (10YR 3/2 LS) 多量に石が埋める
3. 暗褐色土 (10YR 3/3 SL) 石が埋める
4. 黒褐色土 (10YR 2/2 LS) 石が埋める



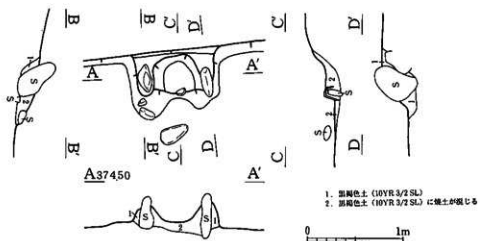
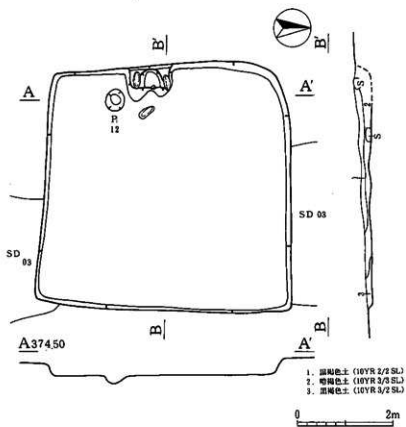
1. 褐色土 (10YR 5/3) 粘性强く、しまり有り、 $\phi$ 1cmほどの礫、少量混入
2. 灰黄褐色土 (10YR 7/3) 粘性强く、しまり有り、 $\phi$ 1~2cmの礫、多く混入
3. にごり黄褐色土 (10YR 5/3) 粘性强く、しまり有り、 $\phi$ 5mm~1cmの礫、中量混入
4. 暗褐色土 (10YR 5/3) 粘性强く、しまり有り、 $\phi$ 5mm~1cmの礫、少量混入
5. 黒褐色土 (10YR 5/3) 粘性强く、しまり有り、 $\phi$ 1cm~3cmの礫、中量混入
6. 黒褐色土 (10YR 5/3) 粘性强く、しまり有り、 $\phi$ 1cm次の礫、中量多く混入



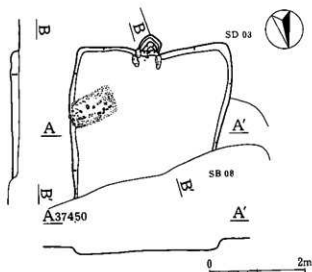
1. 暗褐色土 (10YR 3/3 SL)
2. 暗褐色土 (10YR 3/4 SL)

第7圖 SB02・05・06

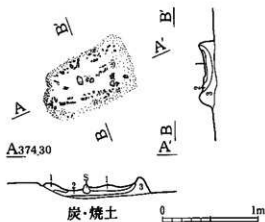




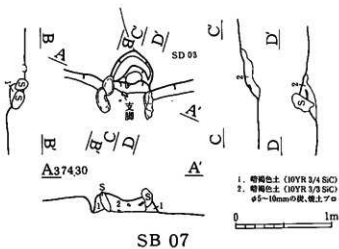
第8図 SB04



1. におい・黄褐色土 (10YR 4/3 SL) に暗褐色土 (10YR 3/3 SL) が混じる

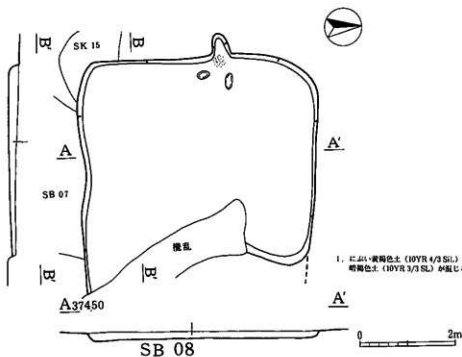


- 炭・焼土
1. 暗褐色土 (10YR 3/3 CL) 粘性やや強く、しまり有り  
炭と焼土のφ5~10mmほどのブロック多く混入
  2. 黒色土 (10YR 1.7/1) 炭の屑
  3. 暗褐色土 (10YR 3/4 CL) 粘性やや強く、しまり有り  
φ5~5mmほどの炭・焼土、やや多く混入



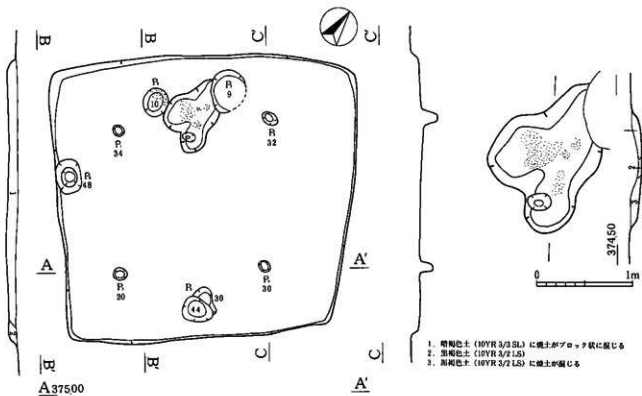
1. 暗褐色土 (10YR 3/4 S1C) 粘性強く、しまり有り
2. 暗褐色土 (10YR 3/3 S1C) 粘性強く、しまり有り  
φ5~10mmの炭・焼土ブロック多く混入、骨片もまばらに混入

SB 07



1. におい・黄褐色土 (10YR 4/3 SL) に暗褐色土 (10YR 3/3 SL) が混じる

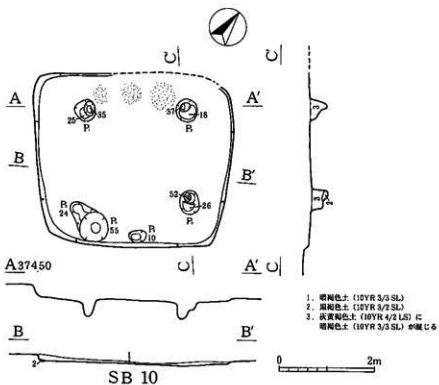
第9図 SB07・08



A37500

SB 09

1. 10YR 3/3 暗褐色土 SIC 粘性中弱く、しまり有り  
 $\phi$ 2-5mmほどの炭化物多量に多く混入  
 土石層による $\phi$ 5-10cmほどの隙や多く混入
2. 10YR 4/2 にかい黄褐色土 SIC  
 粘性中弱く、しまりやや有り、 $\phi$ 3mmほどの炭化物多く混入

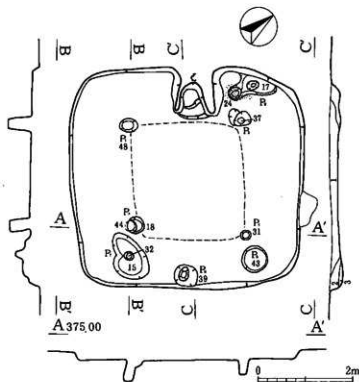


A37450

SB 10

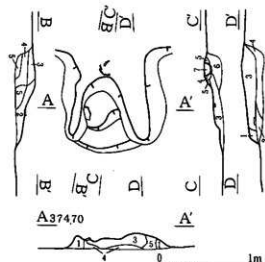
1. 暗褐色土 (10YR 3/3 SL)
2. 黒褐色土 (10YR 3/2 SL)
3. 灰黄褐色土 (10YR 4/2 LS) に暗褐色土 (10YR 3/3 SL) が混じる

第10図 SB 09・10

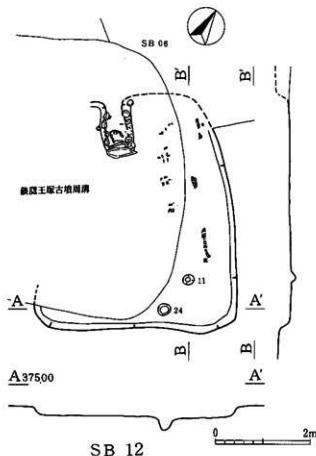


SB 11

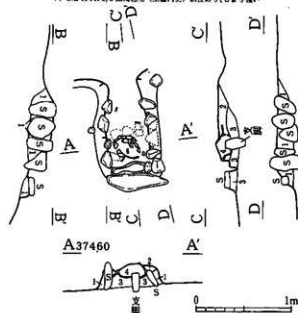
1. 黒褐色土 (10YR 3/2 SL) に、濃い黄褐色土 (10YR 4/3 SL) が混じる
2. 黒褐色土 (10YR 3/2 SL)
3. 濃い黄褐色土 (10YR 4/3 LB) に黒褐色土 (10YR 3/2 SL) が混じる



1. SIL+S 10YR 3/2 黒褐色土 粘性はなく、しまりとも無い  
10YR 6/5 明黄褐色土 砂がブロック状に混在する (雑土)
2. SIL, 10YR 3/3 暗褐色土 粘性あり、しまりは少ない  
少々の砂混在する。雑土粒 2.5YR 4/6 赤褐色土やブロックが多く混在し、炭化物が点々となる  
5Y 5/1 灰土+ボデー状 SIL 土もブロック状に入る  
鉄分、マンガン酸、炭酸多い
3. SIL, 2.5YR 4/6 赤褐色土 (雑土層)  
粘性わずかで、しまりは無い、炭化物、炭酸、雑土粒。  
小ブロック混在。炭色 SIL 土、10YR 5/4 に、黄褐色 SIL 土。  
雑土 2.5YR 4/6 赤褐色土が混でこれに 2.5YR 3/3 暗赤褐色土の雑土が混わる
4. SIL, 10YR 2/1 黒土 粘性わずかにあり、しまり有る  
10YR 6/5 明黄褐色土 砂がブロック状に混在する。炭化物も入る
5. SIL+S 10YR 6/5 明黄褐色土 粘性は少々有り、しまり有る (雑土)
6. 4層土に雑土ブロックが混在する
7. SIL 10YR 3/3 暗褐色土 (土器内土) 粘性あり、しまり無い

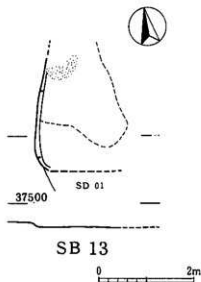


SB 12

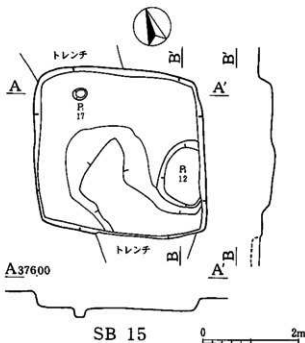


1. SIL+S 10YR 4/4 褐色土 (=地山に類似)  
粘性わずかで、しまり有る。雑土粒や炭化物が入る
2. SIL (少+S) 10YR 4/2 灰黄褐色土  
粘性あり、しまり有る。炭化物が少々入る (=天井)
3. 2層に類似  
2.5YR 4/6 赤褐色土、ただし全層に雑土粒や炭酸が多く入る。又炭化物が少々入る
4. SIL 10YR 4/3 に、濃い黄褐色土 粘性有り、しまり有る。炭化物が点々となる (土器内土)

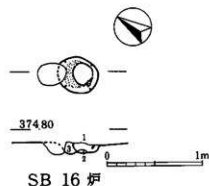
第11図 SB11・12



SB 13

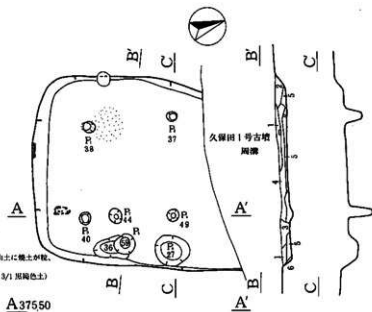


SB 15

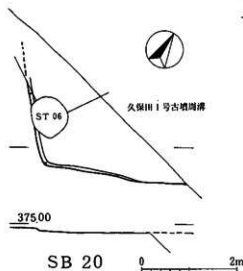


SB 16 炉

1. SIL+S (腐在) 10YR 3/2 赤褐色土  
粘性有り、しまり有。3、4粒よりはるかに多。  
褐色砂岩土 (いわゆるRSL) がブロック状に入る
2. SIL+S (腐在) 10YR 4/4 褐色土+わずかに2.5YR 4/8 赤褐色土  
堆土上に焼土が腐敗状に腐在  
粘性あり、しまり有る (3粒に比べ少ない)
3. SIL+S (腐在) 全体は10YR 4/4 褐色土、上部は2.5YR 4/8 赤褐色土、堆土上に焼土が散。  
炭粒、ブロック状に多く入る  
粘性有り、しまり有る (炭粒層分的に炭化物が散、腐敗に入り、10YR 3/1 黒褐色土)
4. (堆土) SILS (腐在) 10YR 4/4 褐色土  
粘性あり、しまり有る



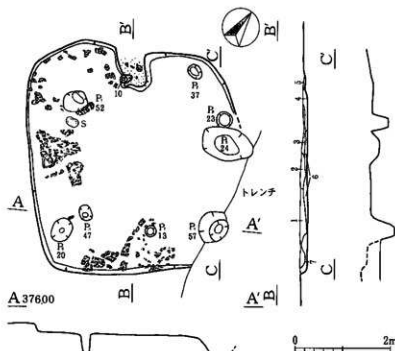
SB 17



SB 20

1. SIL+少+S 10YR 3/3 暗褐色土  
粘性のずかに有り、しまり有る  
マンガン炭粒と炭化物が多く入る
2. 1層土にこわやかに10YR 5/4 におい、黄褐色土 (堆土) 大ブロックが少+  
入り、又、1層土よりも炭化物が多く入る
3. SIL+S 10YR 4/3 暗褐色土+10YR 5/4 におい、黄褐色土+10YR 4/1 褐色土  
粘性はなく、しまりは柔らかめ、黄色砂岩粒が点々と多く入る、マンガン粒、炭粒  
が多く入る
4. 1層土に10YR 5/4 におい、黄褐色土 (堆土) が大ブロック状に非常に多く入  
る、大ブロック土が主と考えてよい
5. SIL+少+S 10YR 4/1 褐色土+2/1 黒褐色土  
粘性はなく、しまりは強い、炭粒やマンガン粒、炭粒が多く入る、黄色砂岩粒が  
点々と少+入る
6. 堆土上 (壁土) のくずれ  
SIL+S 10YR 5/4 におい、黄褐色土  
粘性はなく、しまり有る

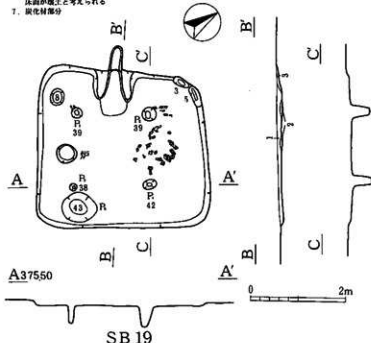
第12図 SB 13・15・16(炉)・17・20



SB 18

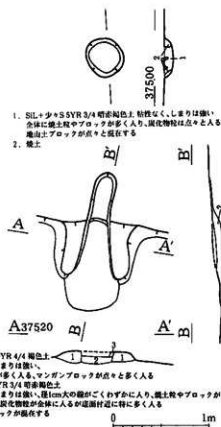
1. SIL+少+S 10YR 4/1 褐色土-4/2 灰黄褐色土  
粘性少くあり、しまりは強い、マンガング泥や黄色砂岩粒、ブロックが多く入る、わずかに炭化物も入る
2. SIL+少+S 5YR 4/4 赤褐色土-3/4 暗赤褐色土  
粘性わずかに有り、しまりは強いかめ、マンガング泥や炭分粒が入り、全体に焼土粒ブロックが入る、黄色砂岩粒ブロックが点々とする(炭化物も点々)
3. SIL+少+S 10YR 3/1 黒褐色土-2/1 黒色土  
粘性わずかに有り、しまりは有る、マンガング泥が入る、わずかに黄色砂岩粒ブロックが入る、炭化物が多く入る(炭化物も点々)
4. SIL+少+S 10YR 4/2 灰黄褐色土  
粘性わずかで、しまりは有る、マンガング泥が多く、炭化物や黄色砂岩粒がわずかに入る
5. 4趾近く焼土粒が入る(カマド天井残りか)
6. SIL+少+S 10YR 3/1 暗褐色土+5Y 4/1 灰土+10YR 4/4 褐色土  
粘性は強く、しまりは強い、上記土質がブロック状に存在する  
灰面が焼土と考えられる
7. 炭化屑層分

1. SIL+少+S 10YR 4/4 褐色土-3/4 暗褐色土  
粘性は強く、しまりは強い、マンガング泥、炭分層粒が入る、  
黒褐色SIL (5YR 4/1) がブロック状に存在する
2. パワー状SIL 2.5YR 4/6 赤褐色土 焼土層
3. 1 層層状(焼土)に焼土粒やブロックが存在する



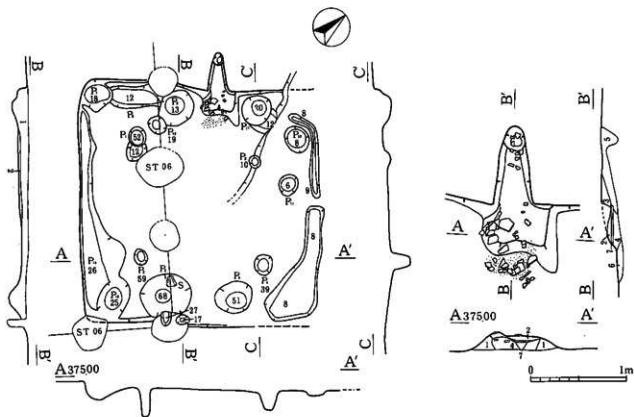
SB 19

1. SIL+少+S 10YR 3/2 黒褐色土 粘性わずかで、しまりは強い、径3cm程度の粒が点々とする、炭分粒、マンガング泥が多く入る、ごくわずかに炭化物粒や焼土粒が入る、10YR 4/4 褐色 SIL上ブロックが存在する
2. SIL 10YR 3/1 黒褐色土 粘性少く有り、しまりは強い、炭分粒、マンガング泥が入る、焼土粒もわずかに入る
3. SIL 10YR 4/2 赤褐色土 (カマド天井土)  
粘性わずかで、しまりは強い、炭分粒、マンガング泥が入る  
炭化物粒が多く点々とする、又焼土粒が点々とする



1. SIL+少+S 5YR 3/4 暗赤褐色土 粘性は強く、しまりは強い、  
全体に焼土粒やブロックが多く入り、炭化物粒は点々とする  
焼土土ブロックが点々として存在する
2. 焼土

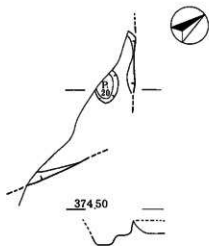
第13図 SB 18・19



SB 21

1. SIL+少+S 10YR 4/1 褐色土  
粘性はほとんどなく、しまりはとても強い  
鉄分マンガノ層状が入る。黄色砂岩粒や炭化物が点々と多く入る
2. 1層に非常に多くのマンガノ粒やブロックが入り炭化物も少々入る

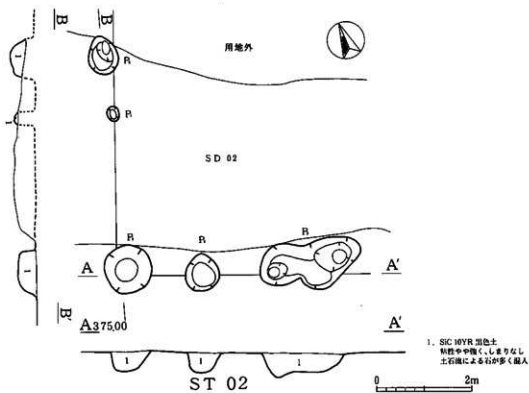
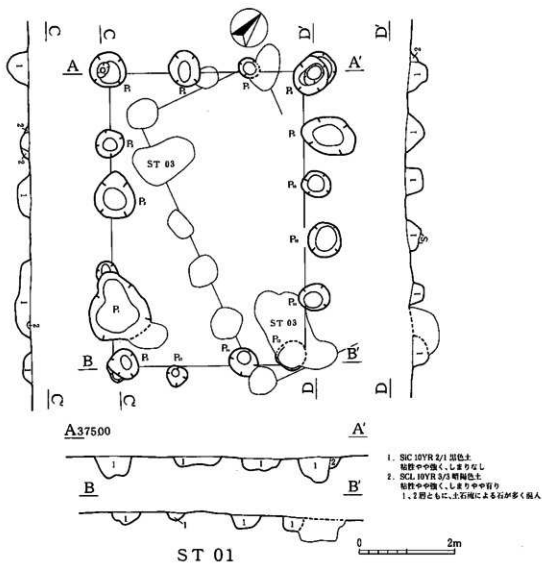
1. SIL+少+S  
粘性はなく、しまりはとても強い  
鉄分大の塊がわずかに入る  
鉄分層状が非常に多く、マンガノ粒も入る
2. 1層に帯状、ただし鉄1cm大の塊が多く入り黄色砂岩粒も多く入る
3. 地山(1に転写) 硬質赤土
4. SIL+少+S  
5YR 4/6 赤褐色土ブロック+2.5YR 3/1 暗赤褐色土ブロック+5Y 5/1 褐色土ブロック  
粘性はなく、しまりは強い。織土粒ブロック多く入る  
炭化物粒も多く入る



SB 23

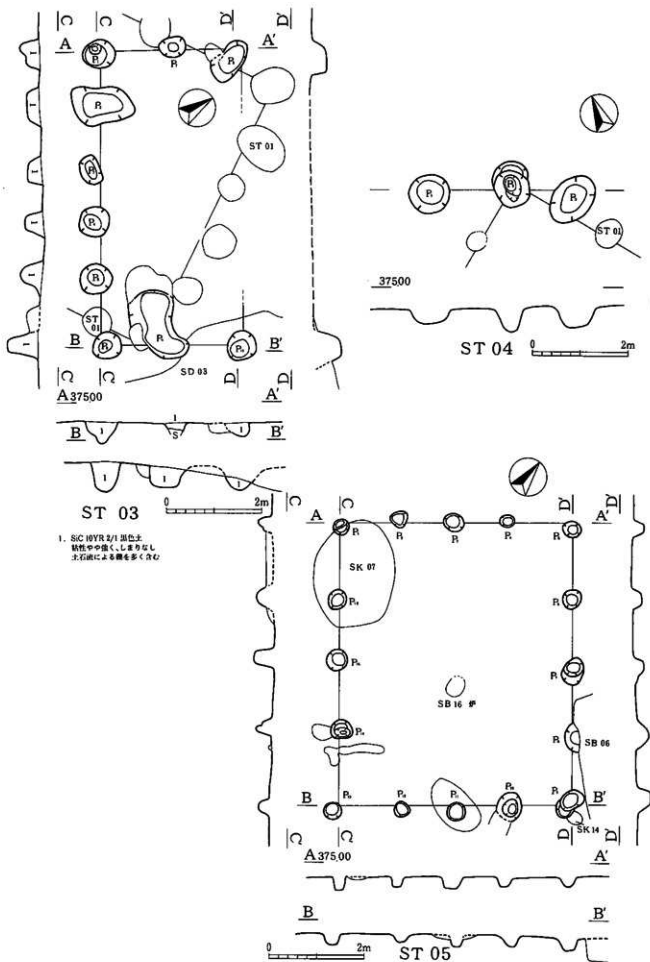
5. SIL+少+S 7.5YR 3/2 黒褐色土  
粘性はなく、しまりは強い。織土粒、炭化物粒が非常に多く入る。マンガノ層状が多い
6. パウダー状 SIL 2.5YR 4/6 赤褐色土  
粘性なく、しまりはやや中強か!
7. パウダー状 SIL 2.5YR 4/6 赤褐色土(織土層)  
粘性なく、しまりとても強い

第14図 SB 21・23



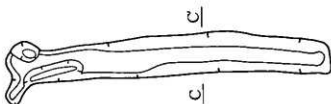
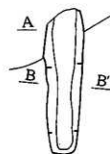
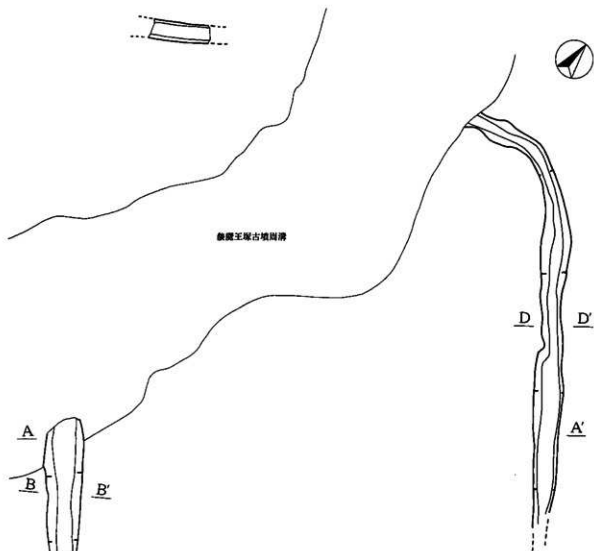
第15図 ST 01・02





第16図 ST 03・04・05



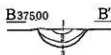


A37500

A'

1. SIL+Sの墓に+径1~3cm大の礫 10YR 4/2 灰黄褐色土  
粘性なく、しまり有るが、礫が多いため凹凸、縞的
2. SIL+S 10YR 4/2 灰黄褐色土  
粘性なく、しまりはとても強い、層状粒物が多く入る
3. SIL+S 10YR 4/4 褐色土  
粘性なく、しまりとても強い、層状粒物が多く入る  
厚1cm大の礫も点々と入る、ごくわずかに黄色砂岩粒が入る

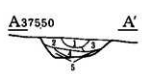
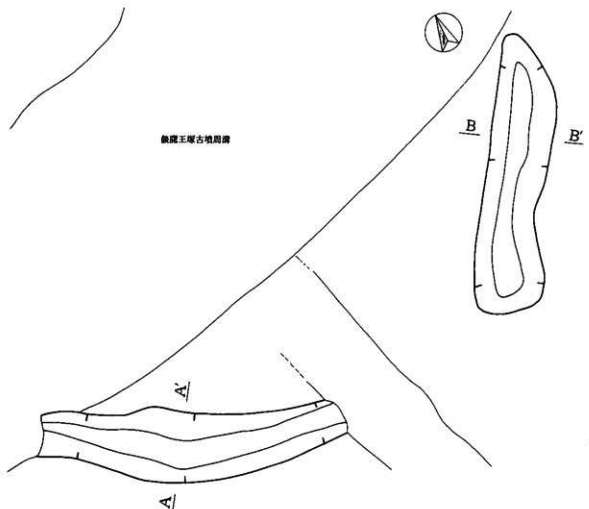
0 3m



1. SIL-S (奥の) 10YR 4/2 灰黄褐色土  
粘性なく、しまり強い、層状石が多く入る  
黄色砂岩粒が点々と入る、数分粒、マンガン鉄粒が多く入る
2. SIL+S (奥の) 10YR 3/1 黒褐色土  
粘性なく、しまり有る、層状石が多く入る  
黄色砂岩粒がわずかに入る、マンガン鉄粒が入る、炭化粒粒がわずかに入る
3. SIL+S (奥の) 2.5Y 4/1 紫褐色土  
粘性なく、しまり強い、層状石や小礫が多く入る、マンガン鉄粒が多く入り、数分粒  
が少々入る、炭化粒粒がごくわずかに入る

0 2m

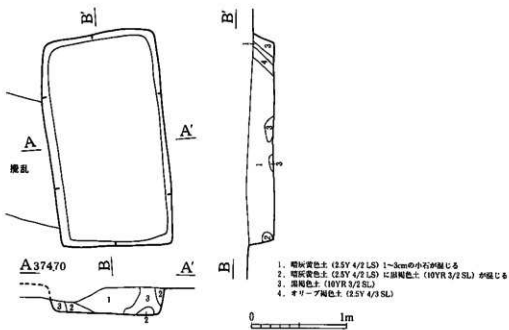
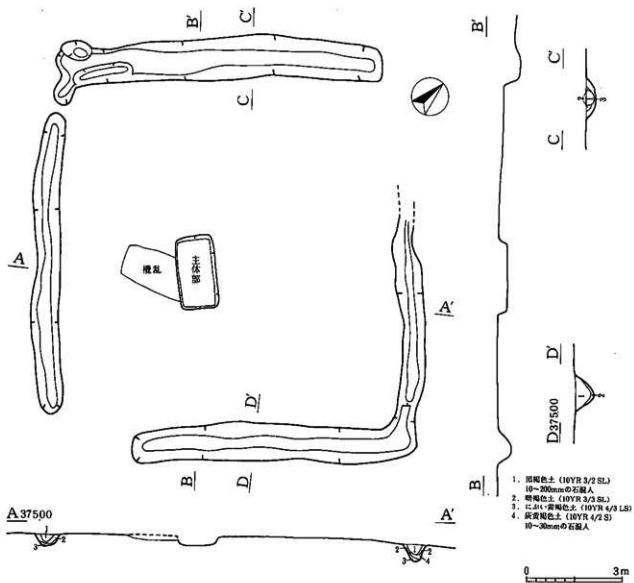
第18図 SM 01



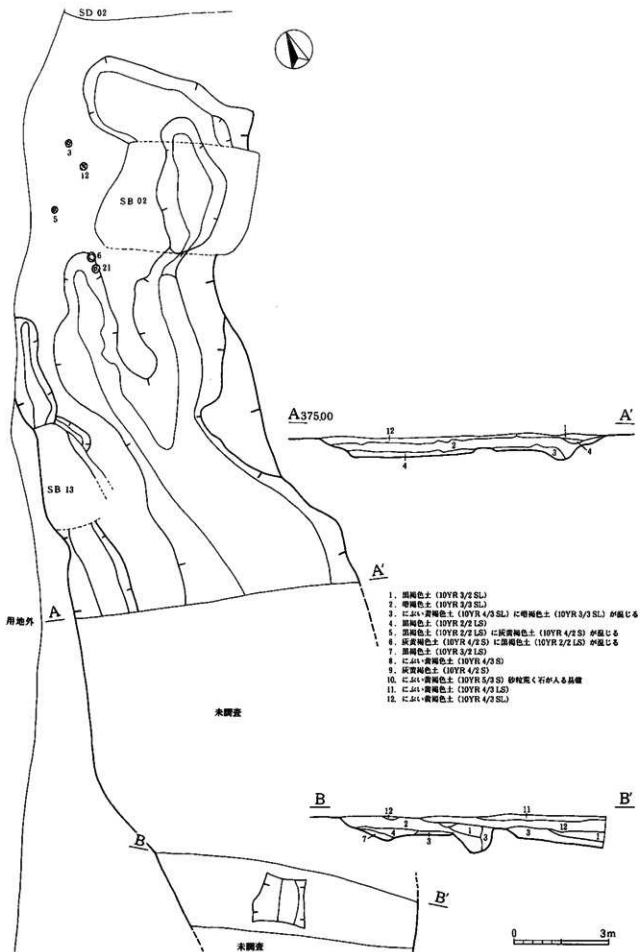
1. SIL+S (縦在) 10YR 4/2 灰黄色土  
粘性なし、しまり強い、細粒石が多く入る  
鉄分、マンガノ屑が多い  
黄色砂岩粒が点々となる
2. SIL+S (縦在) 5Y 3/1 オリーブ赤  
粘性なく、しまり強い、細粒石が多く入る、鉄分、マンガノ屑鉄や黄鉄が非常に多く入る  
黄色砂岩粒が点々となる
3. SIL+S (縦在) 10YR 4/1 褐紅色土  
粘性なし、しまり強い、小礫が入る、炭化物粒が点々となる、鉄分、マンガノ屑鉄も多くなる
4. SIL+S (縦在) 5Y 4/1 灰色土  
粘性はなし、しまり強い、細粒石や小礫が多く入る、黄色砂岩粒も他層より多い、鉄分、マンガノ屑鉄や小ブロックは非常に多い
5. パワダ状 SIL 2.5Y 6/5 におい 黄色土  
粘性あり、しまり強いが、軟土状である  
鉄分粒、小ブロックが非常に多く入る

1. SIL+S (縦在) 10YR 4/1 褐紅色土  
粘性なし、しまり強い、鉄分粒、炭化物が非常に多く、黄色砂岩粒が多く入る  
小礫を多く含む、炭化物粒、ごくわずか入る
2. SIL+S (縦在) 10YR 4/1 褐紅色土～3/1 赤褐色土  
粘性なく、しまり強い、鉄分粒、炭化物が  
黄色砂岩粒が多く入る、小礫を多く含む
3. SIL+S (縦在) 10YR 4/1 褐紅色土  
粘性なく、しまり強い、鉄分粒、炭化物が入るが、1、2層にくらべずと少ない、小礫を多く含む、炭化物粒がごくごくわずかに入る、黄色砂岩粒がわずかに入る
4. SIL+S (縦在) 10YR 3/1 赤褐色土  
粘性なく、しまり強い、鉄分粒が入るが、1、2、3層にくらべ少ない、小礫が入るが1、2、3層にくらべずと少ない、黄色砂岩粒がわずかに入る

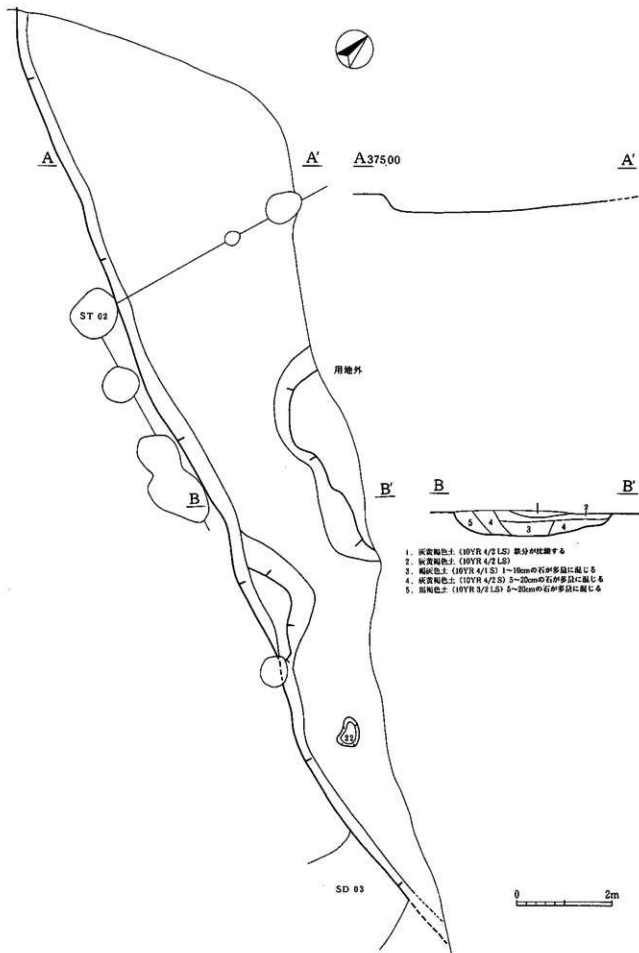
第19図 SM02



第20図 SM03



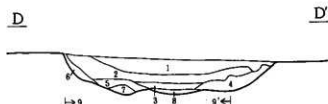
第21図 SD 01



第22図 SD 02



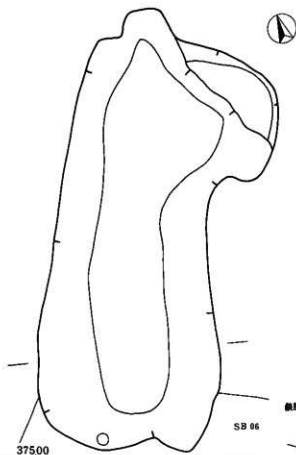
1. 黒褐色土 (10YR 3/2 SL) 鉄分が比較する
2. 黒褐色土 (10YR 3/2 SL)
3. 黒褐色土 (10YR 3/1 SL)
4. 黒褐色土 (10YR 3/1 LS)
5. 黄褐色土 (10YR 4/2 LS)
6. 砂礫
7. 暗褐色土 (10YR 3/4 SL)



1. SIL+S (断面) 2.5Y 3/2 黒褐色土 粘性少々あり、しまり好む  
深灰褐色中硬子粒、黄色砂岩粒が点々となる。全体に細粒石や小礫が非常に多く入る。マダマシ層状
2. SIL+S (断面) 2.5Y 3/1 黒褐色土 粘性あり、しまり少々あるのみ、全体に細粒石が多く入るが、1層よりは少ない。点々と黄色砂岩粒や、こぶし大の礫が入る
3. S (わずかにSILが混在) 2.5Y 2/1 黒褐色土 粘性なく、しまりは差らない  
薄5cm前後の層が全体にびっしり入る。黄色砂岩粒も点々となる
4. S+ (わずかにSIL) 10YR 4/3 におい黄褐色土+10YR 4/1 陶質土 (断面) 粘性なく、しまりは差らない。全体に薄5cm大の礫が多く入る
5. S+ (わずかにSIL) 10YR 4/1 黒褐色土+4/2 黄褐色土 (断面) 粘性なく、しまりは差らない。9-9' 土が土プロク状に点々となる
6. SIL+S 10YR 4/2 黄褐色土 粘性あり、しまりは差らない  
細粒石が混在するが、1層中2層よりは少ない、わずかに黄色砂岩粒が入る。  
薄や厚まわに少々9-9' 土が混在
7. S+ (わずかにSIL) 8 層土に薄3-5cm大の礫がびっしりとなる
8. S 9-9' (マダマシ) 土に薄3-5cm大の礫がびっしりとなる  
9-9' : S 10YR 5/8 黄褐色土 粘性なく、しまりは差らない

第23図 SD 03



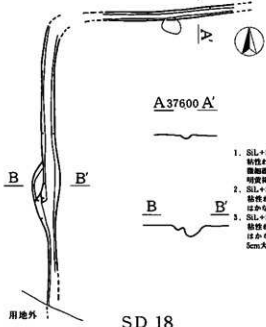


SB 06



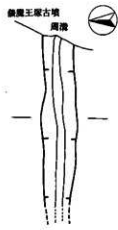
SD 04

1. 黒褐色土 (10YR 2/2 SL)
2. 黒褐色土 (10YR 3/2 SL)
3. 紅い黄褐色土 (10YR 4/3 SL)
4. 暗褐色土 (10YR 3/3 SL)
5. 黒褐色土 (10YR 3/2 SL) 中に赤い黄褐色土 (10YR 4/3 SL) が混じる
6. 黒褐色土 (10YR 3/2 SL)



SD 18

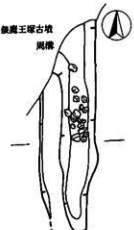
用外



37500

SD 06

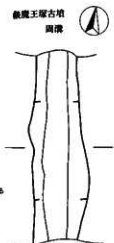
1. 黒褐色土 (10YR 3/2 LS)
2. 暗褐色土 (10YR 3/3 LS)



37500

SD 07

1. 黒褐色土 (10YR 3/2 SL)
2. 暗褐色土 (10YR 3/4 SL)
3. 暗褐色土 (10YR 3/4 LS)
4. 紅い黄褐色土 (10YR 4/3 LS)
5. 暗褐色土 (10YR 3/3 LS)



37500

SD 08

1. SL+S 10YR 3/1 黒褐色土  
粘性の弱く有り、しまりはとも無い  
微細な磁石が多く入る  
暗褐色のブロックが混入する
2. SL+S 10YR 4/3 紅い黄褐色土  
粘性の弱く有り、しまりは有る。1層より  
はかばかであるが、微細な磁石が入る
3. SL+S 10YR 4/3 紅い黄褐色土  
粘性の弱く有り、しまりは有る。1層より  
はかばかであるが、微細な磁石が入り、又  
5cm以上の磁石が入る



37450

SD 11

1. 黒褐色土 (10YR 3/2 SL) 中に、紅い黄褐色土 (10YR 4/3 LS) が混じる
2. 暗褐色土 (10YR 4/2 LS)



A37580 A'

B B'

SD 17

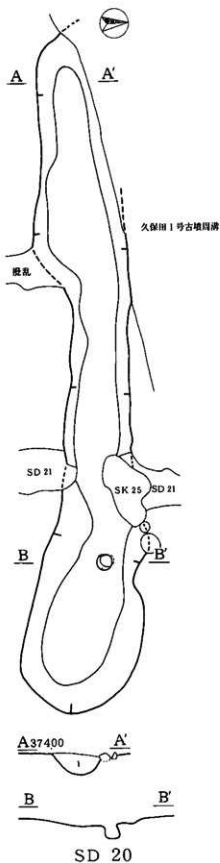


37580

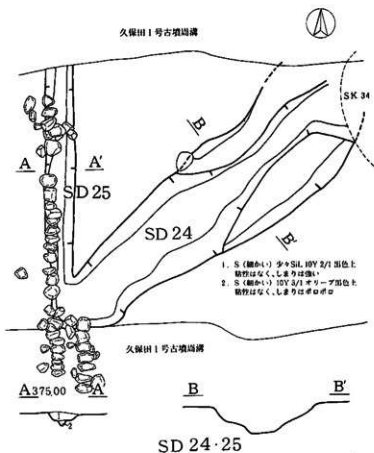
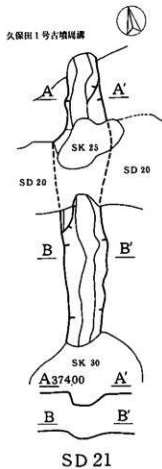
SD 19

0 2m

第24図 SD04・06~08・11・17~19



1. S+溝 (幅1~10cm) SY 4/1 灰色土  
 粘性はなく、しまりはボロボロ  
 部分を含む (しばらくすると酸化して褐色、茶色となる)



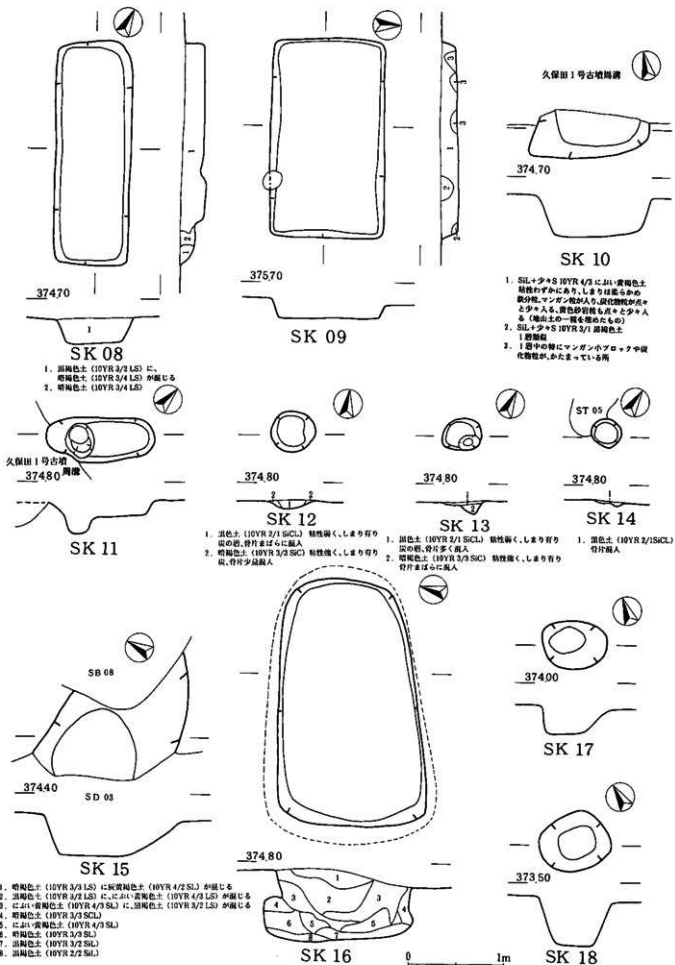
1. S (幅4~) 多→SIL 10Y 2/1 灰色土  
 粘性はなく、しまりは強い
2. S (幅4~) 10Y 3/1 オリーブ灰色土  
 粘性はなく、しまりはボロボロ

0 2m

第25図 SD 20・21・24・25







久保田1号古墳周溝

37470

SK 10

1. SL+少+S 10YR 4/3 におい黄褐色土 磁鉄の片みあり、しまり付るからめ 裏分岐、マンガン色が入り、炭化植物の点と少+入る、黄色砂質物も点と少+入る (地山土の一面を埋めたもの)
2. SL+少+S 10YR 3/1 黒褐色土  
1 埋没物  
2. 1層中の特にマンガン小ブツや炭化植物が、かたまっている所

37470

SK 08

1. 黒褐色土 (10YR 3/2 LS) に、暗褐色土 (10YR 3/4 LS) が混じる
2. 暗褐色土 (10YR 3/4 LS)

37570

SK 09

久保田1号古墳  
37480周溝

SK 11

37480

SK 12

1. 黒色土 (10YR 2/1 SCL) 磁鉄弱く、しまり有り 炭の殻、骨片まばらに混入
2. 暗褐色土 (10YR 3/3 SC) 磁鉄強く、しまり有り 炭、骨片少混入

37480

SK 13

1. 黒色土 (10YR 2/1 SCL) 磁鉄弱く、しまり有り 炭の殻、骨片多く混入
2. 暗褐色土 (10YR 3/3 SC) 磁鉄強く、しまり有り 骨片まばらに混入

37480

SK 14

1. 黒色土 (10YR 2/1 SCL) 骨片混入

SB 08

SK 15

1. 暗褐色土 (10YR 3/3 LS) に純黄褐色土 (10YR 4/2 SL) が混じる
2. 黒褐色土 (10YR 3/2 LS) に、におい黄褐色土 (10YR 4/3 LS) が混じる
3. におい黄褐色土 (10YR 4/3 SL) に、黒褐色土 (10YR 3/2 LS) が混じる
4. 暗褐色土 (10YR 3/3 SCL)
5. におい黄褐色土 (10YR 4/3 SL)
6. 暗褐色土 (10YR 3/3 SL)
7. 黒褐色土 (10YR 3/2 SL)
8. 黒褐色土 (10YR 2/2 SL)

37480

SK 16

37400

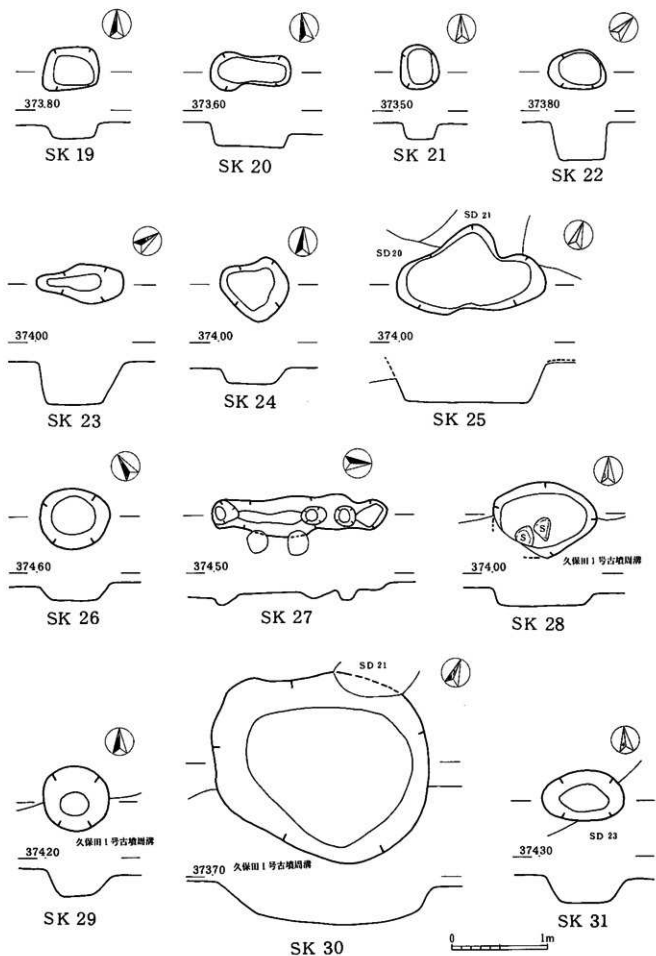
SK 17

37350

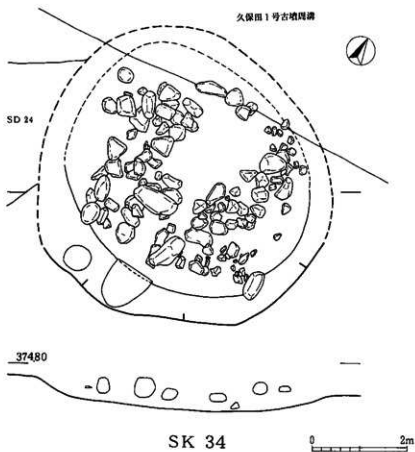
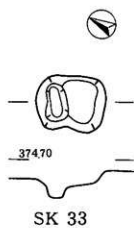
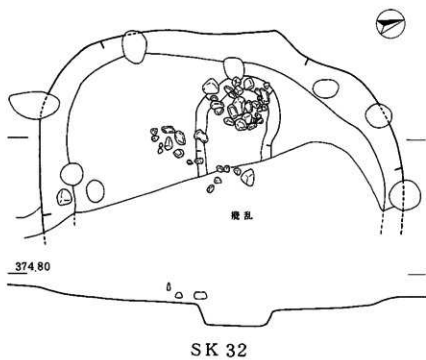
SK 18

0 1m

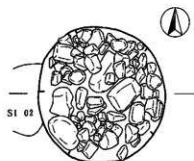
第28図 SK 08~18



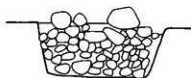
第29図 SK 19~31



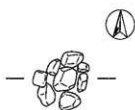
第30図 SK 32~34



37450



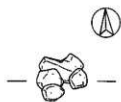
SI 01



37470



SI 02



37470



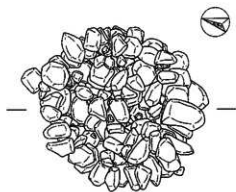
SI 03



37470



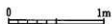
SI 04



37360

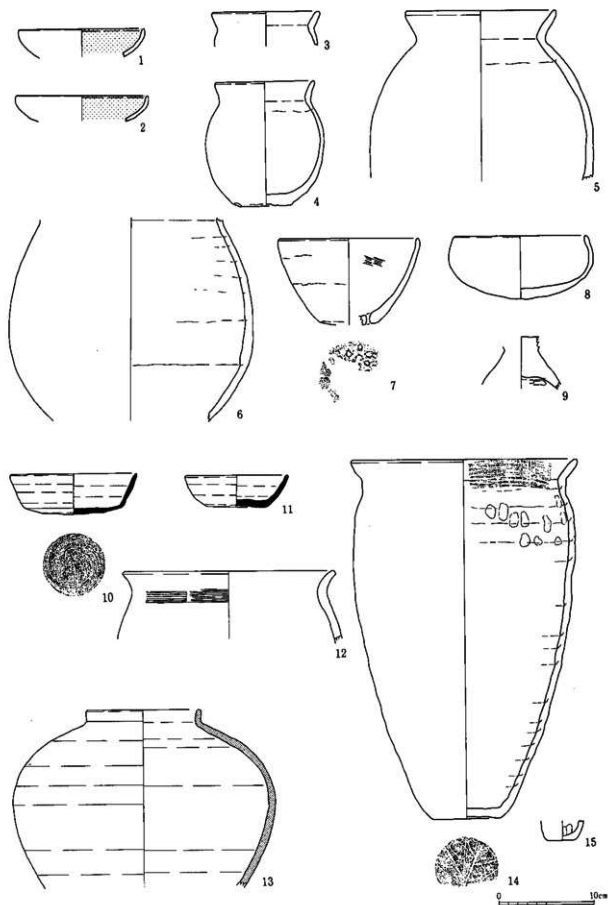


SI 05

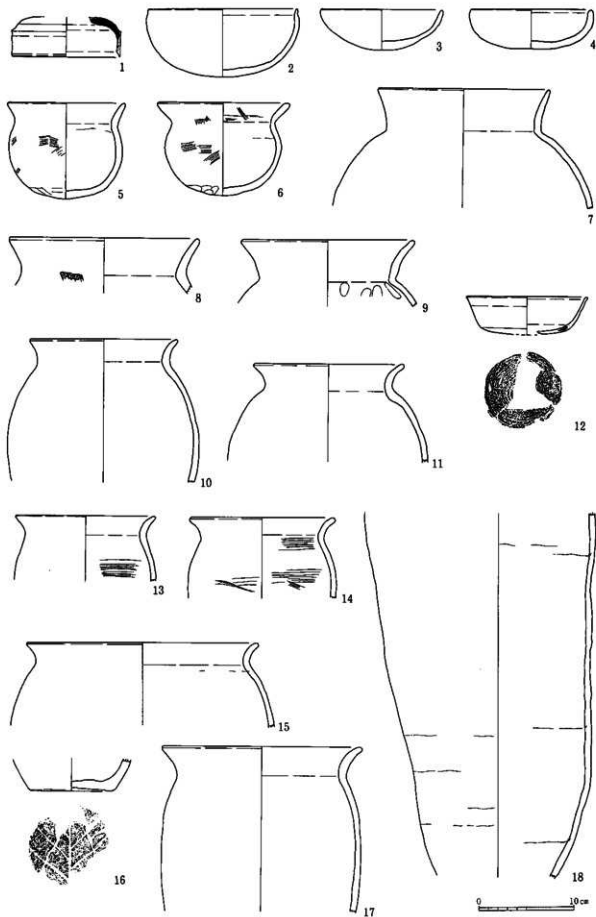


第31圖 SI 01~05

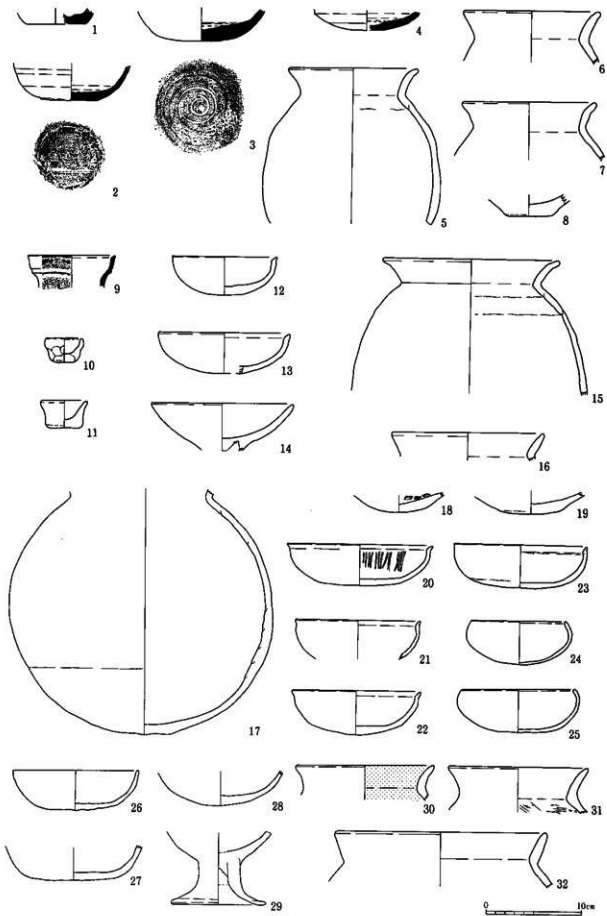




第32図 出土遺物 1~7 SB01 10~14 SB04  
 8・9 SB02 15 SB05



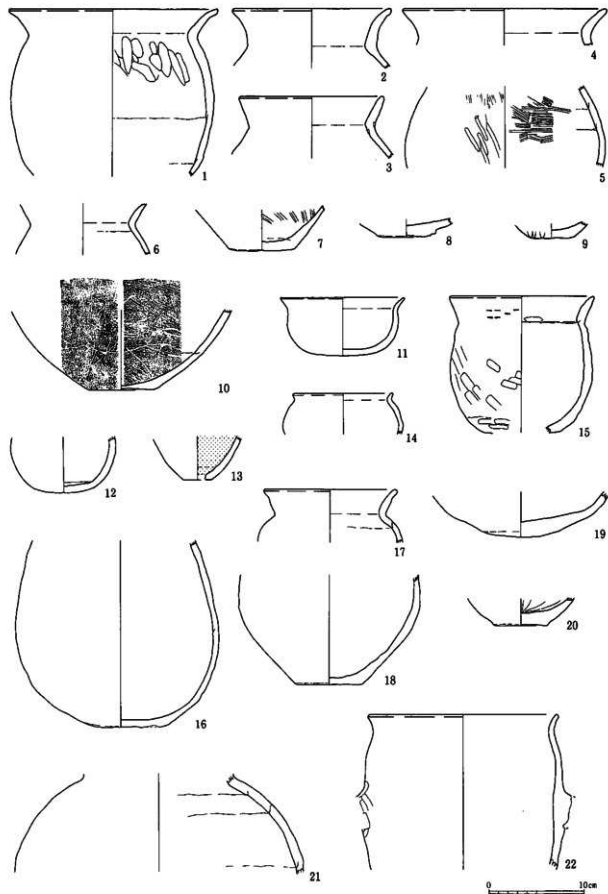
第33図 出土遺物 1~9 SB06 12~18 SB08  
10・11 SB07



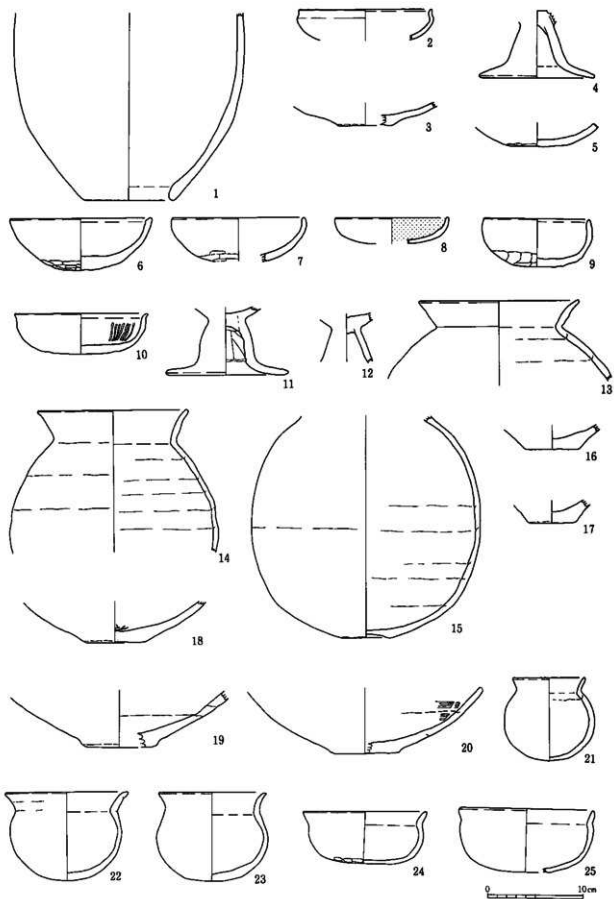
第34図 出土遺物

1~3 SB08  
4~11 SB09

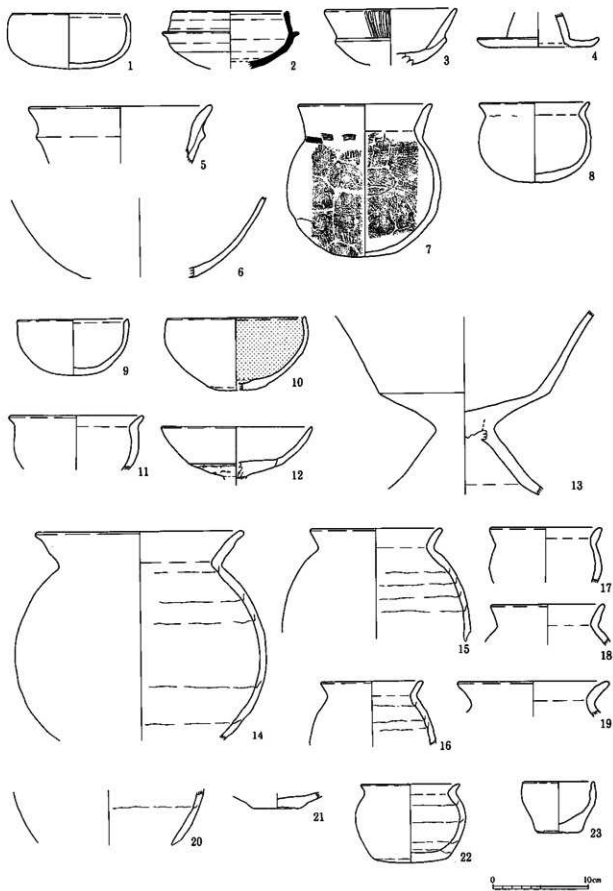
12~19 SB10  
20~32 SB11



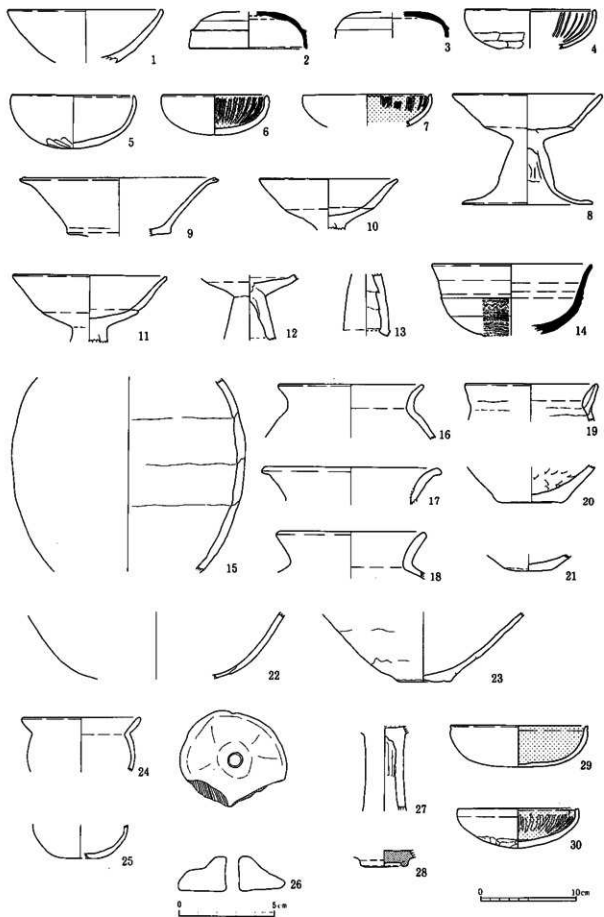
第35圖 出土遺物 1~14 SB11  
5~22 SB12



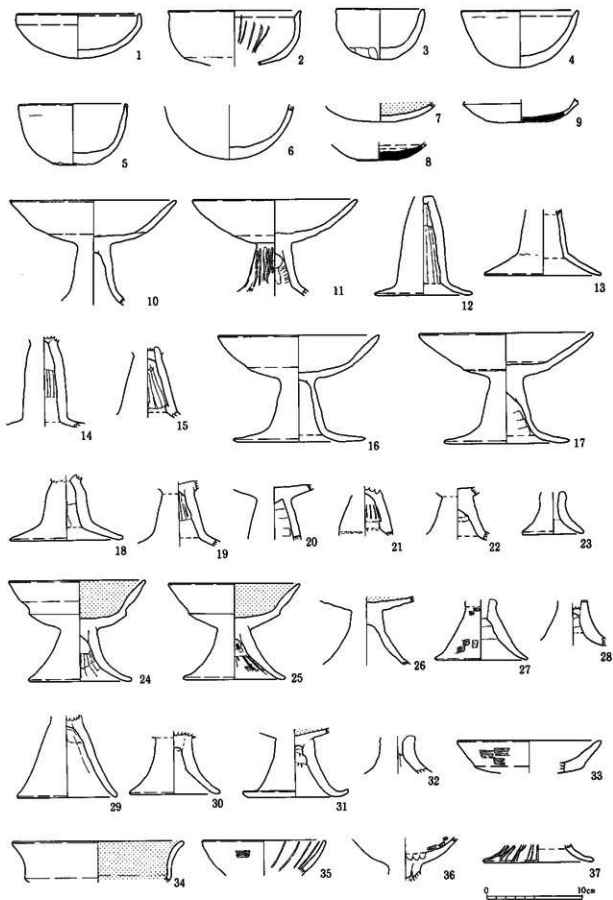
第36圖 出土遺物 1 SB12 4・5 SB15 24・25 SB18  
 2・3 SB13 6~23 SB17



第37図 出土遺物 1~8 SB18  
9~23 SB19

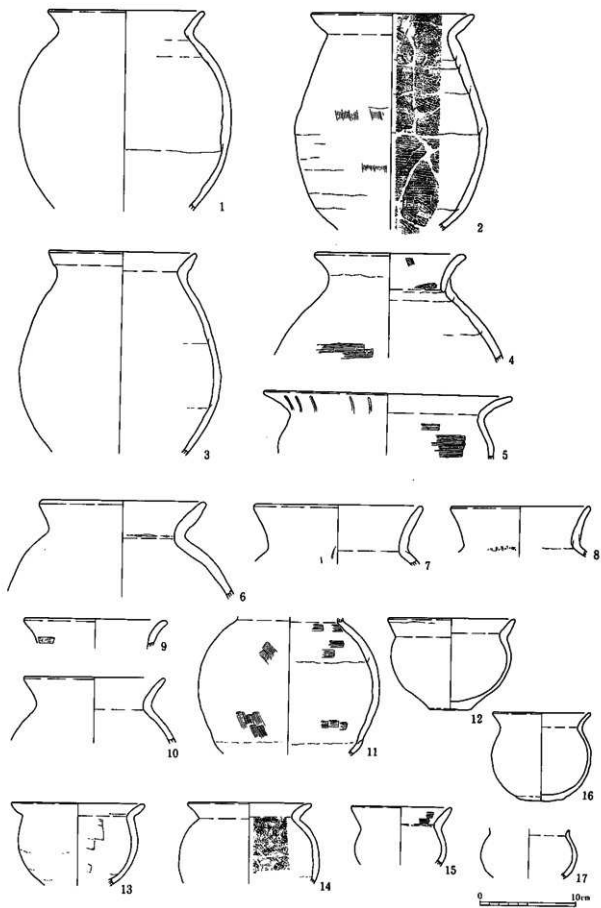


第38图 出土遺物 1 SB20 27-28 SD01  
 2~26 SB21 29-30 SD03

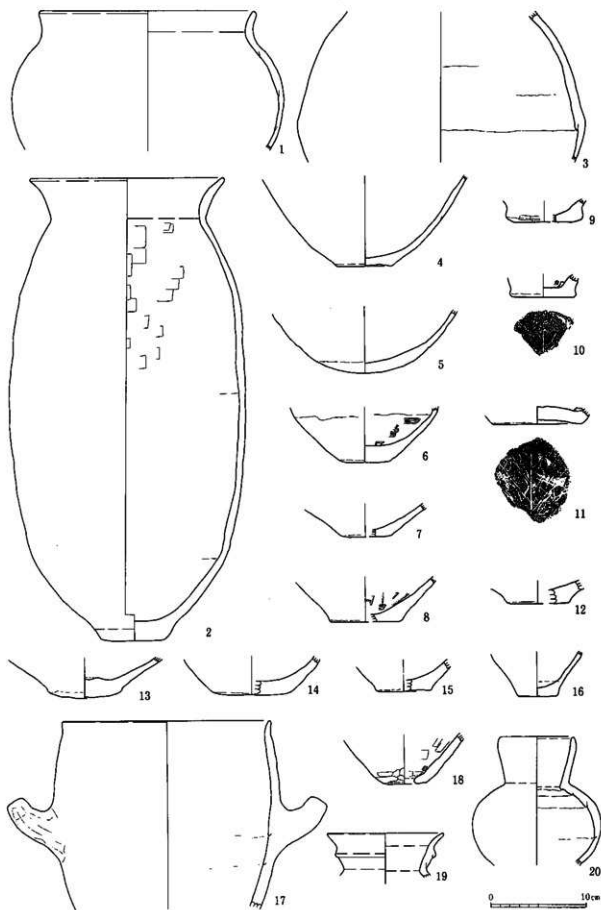


第39圖 出土遺物 1~37 SD03

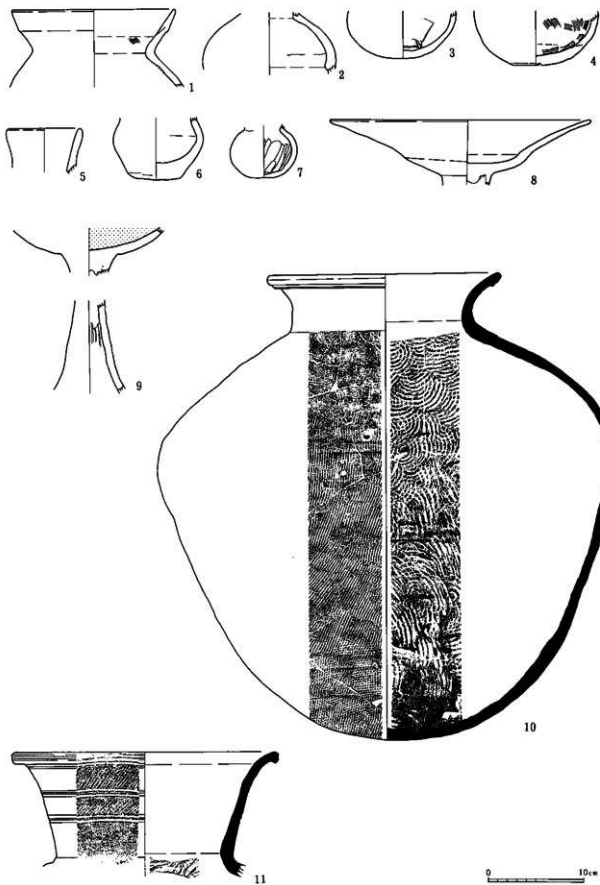




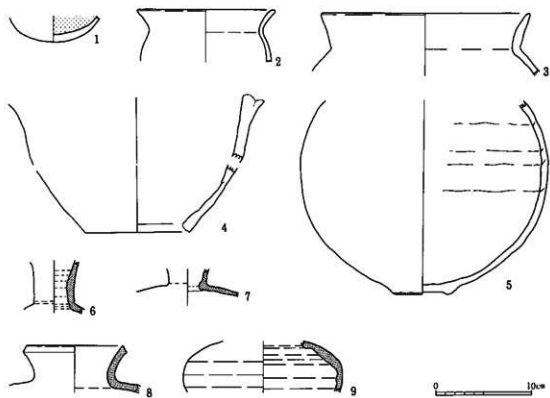
第40図 出土遺物 1~17 SD03



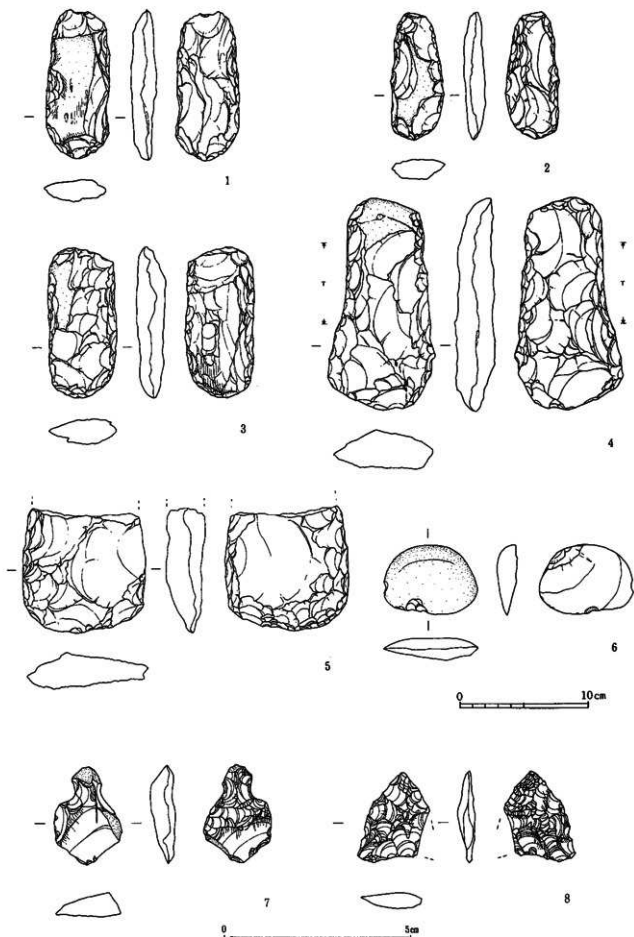
第41圖 出土遺物 1~20 SD03



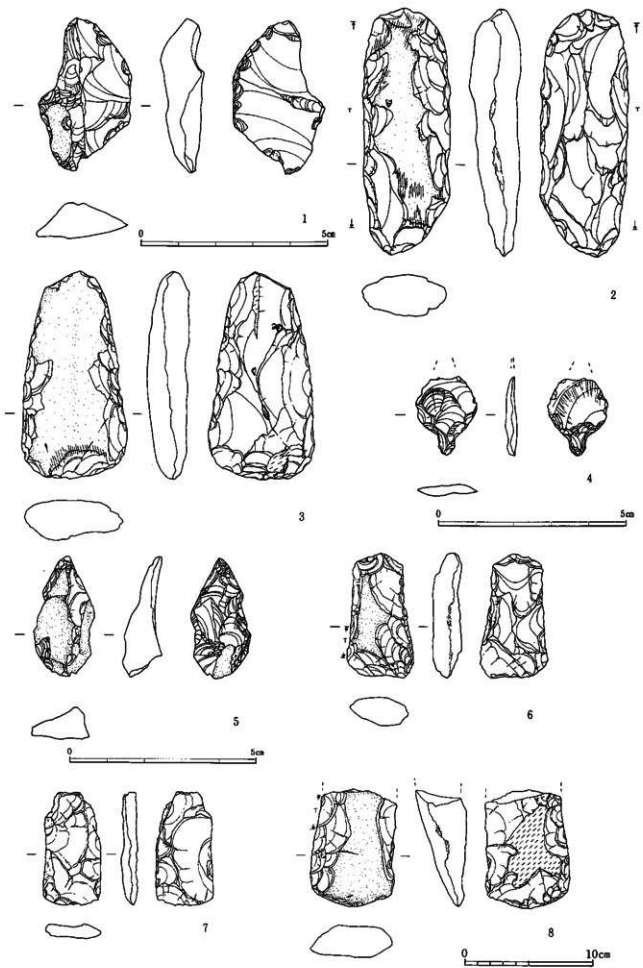
第42図 出土遺物 1~7 SDO3  
8~11 SDO4



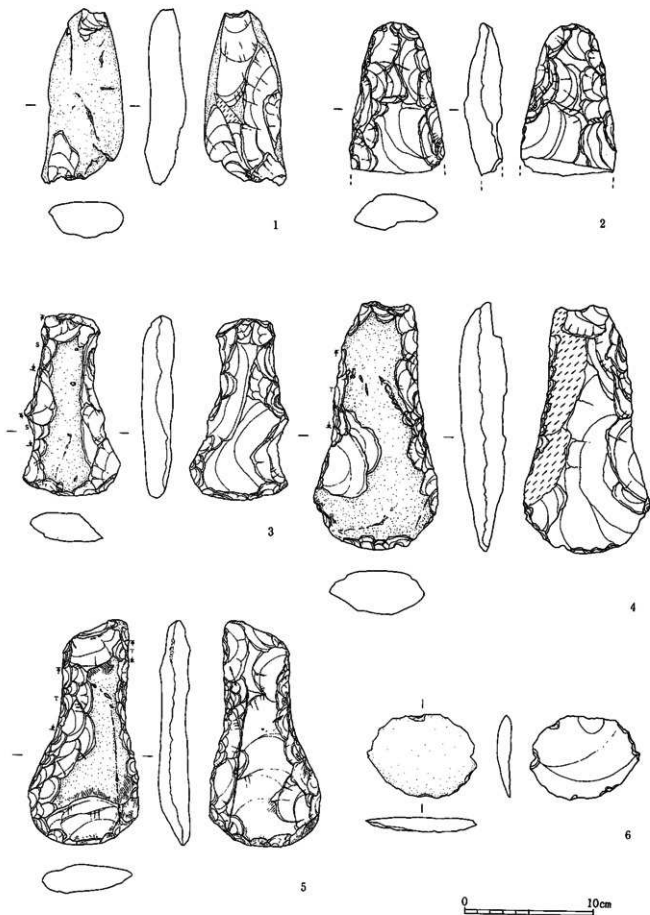
第43圖 出土遺物 1～9 遺構外



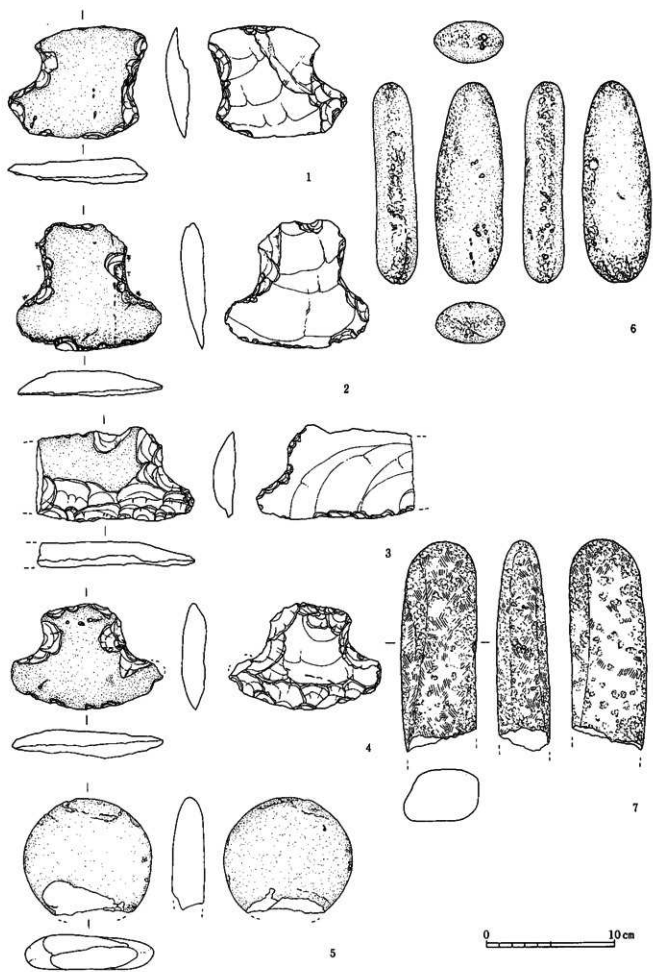
第44図 出土遺物 1~8 SD01



第45図 出土遺物 1 SD01 6~8 SD03  
 2~5 SD02

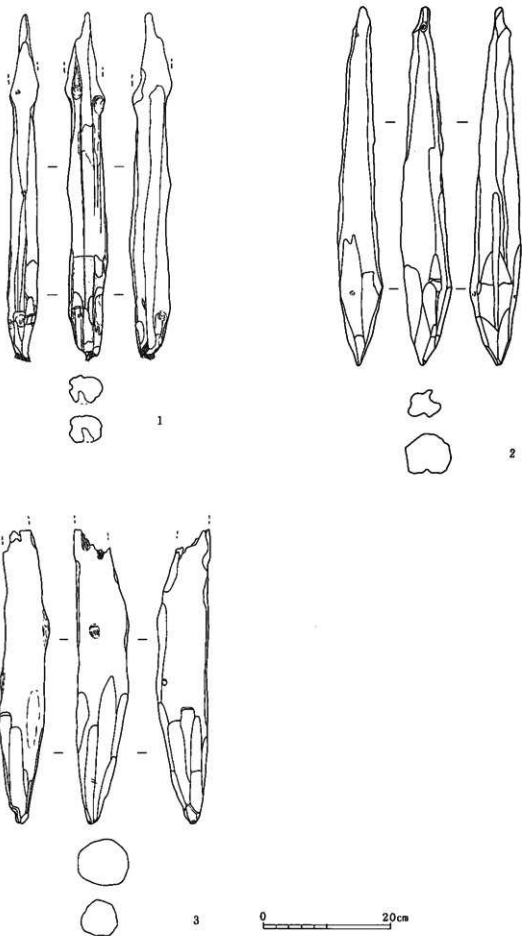


第46圖 出土遺物 1~6 SD03

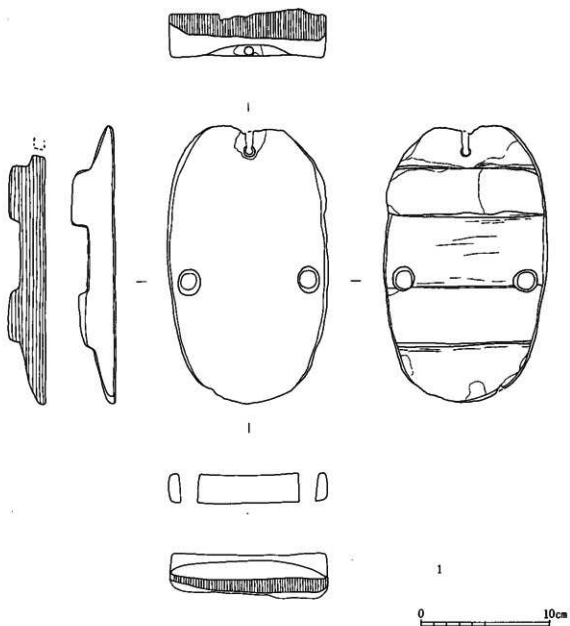


第47圖 出土遺物 1~7 SD03





第48図 出土遺物 1~3 遺構外



第49図 出土遺物 1 遺構外

## 写真図版

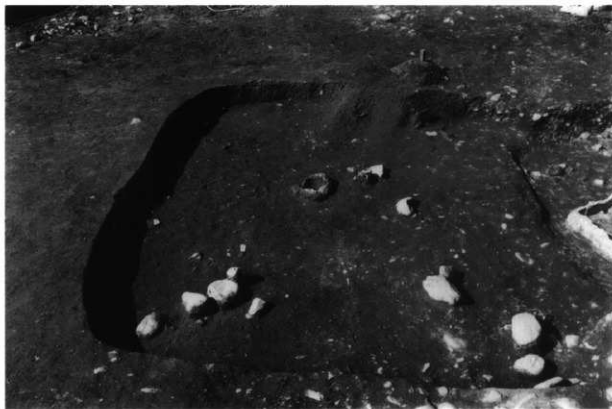




調査前



調査前



SB01



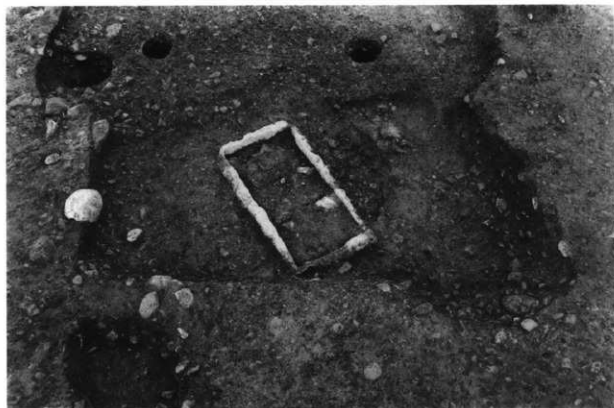
SB02



SB04



SB04 竈址



SB05



SB06

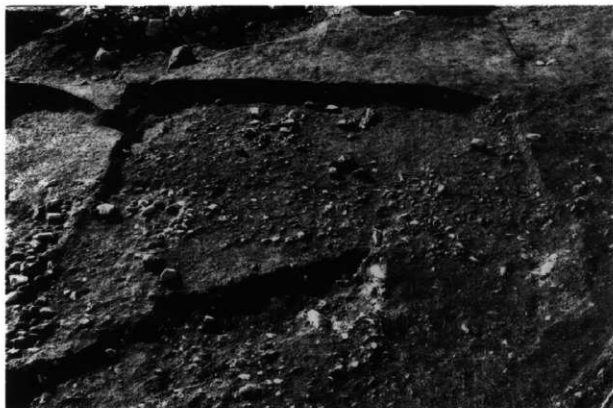




SB07



SB07 竈址



SB08



SB08 竈址



SB09



SB09 炉址



SB10



SB10 遺物分布



SB10 遺物分布



SB11



SB 11 竈址



SB 12



SB12 竈址



SB13



SB16

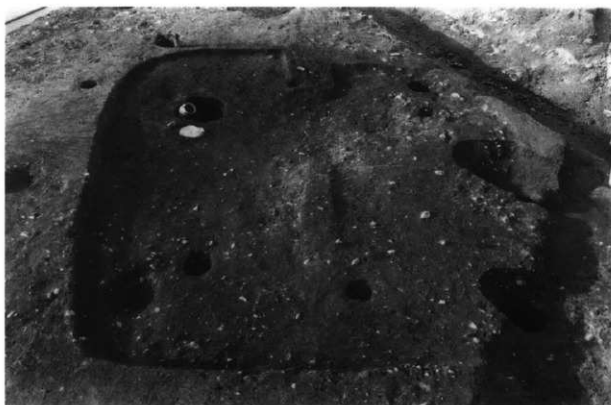


SB16 炉たち割

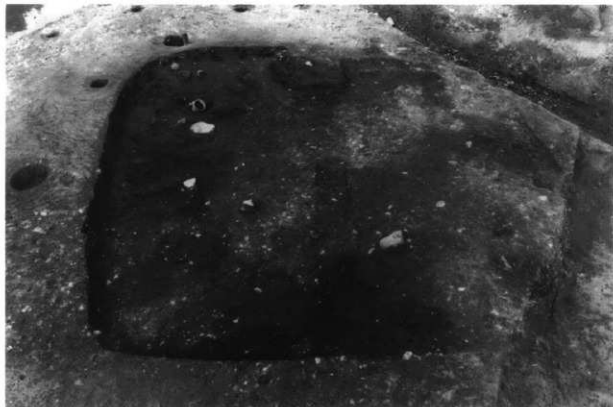




SB 17



SB 18



S B 1 8 遺物分布



S B 1 8 竈址



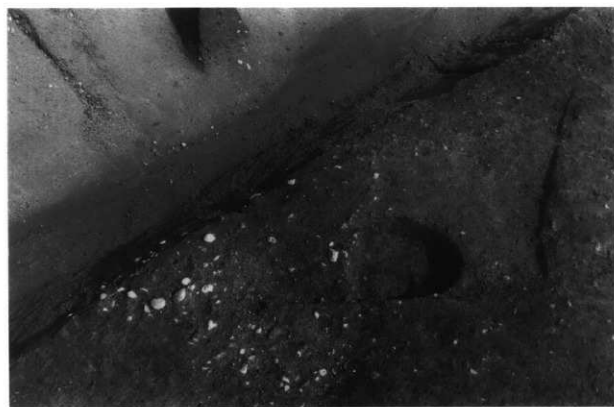
SB 19



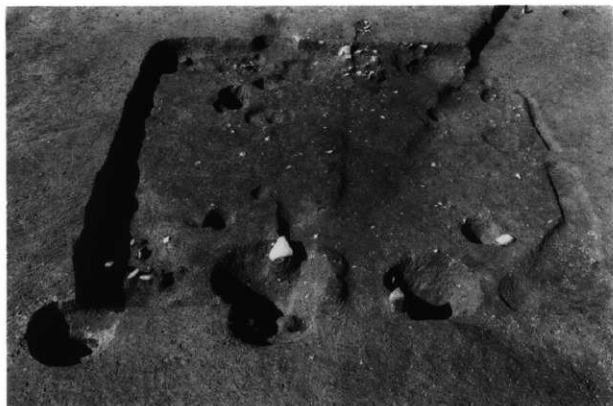
SB 19 炉址



SB19 庵址



SB20



SB 21



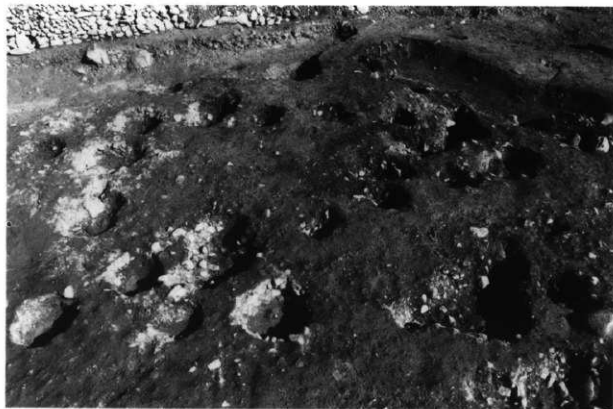
SB 21 遺物分布



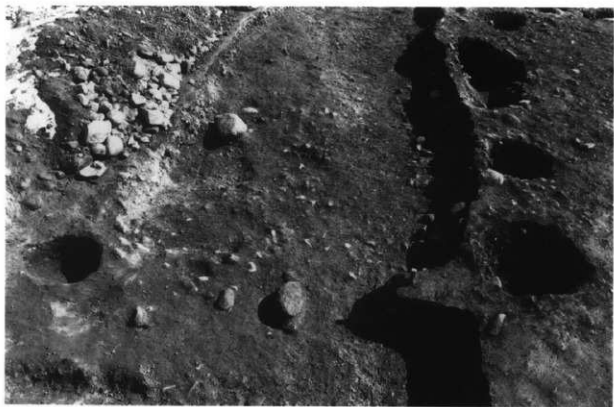
SB 21 竈址



SB 23



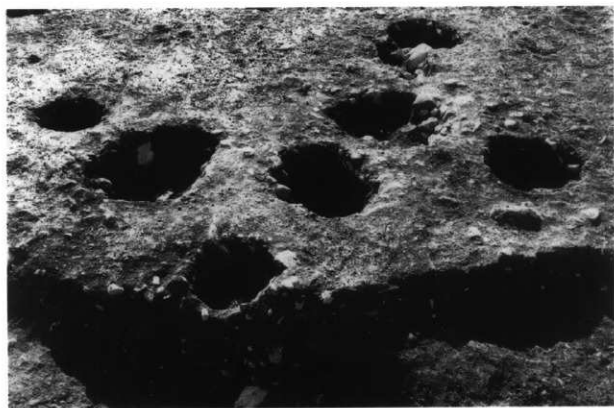
ST 01



ST 02



ST 03



ST 04





ST05



ST06



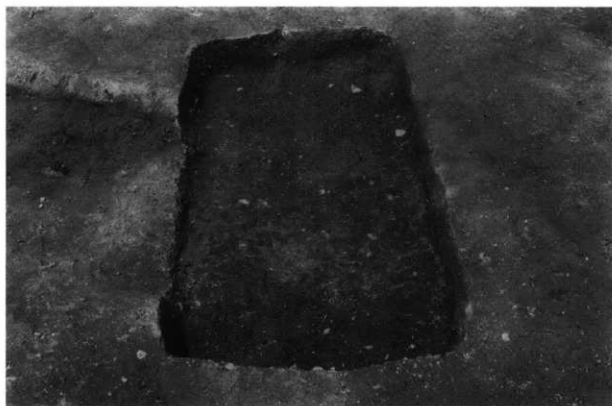
SM01



SM02



S M 0 3



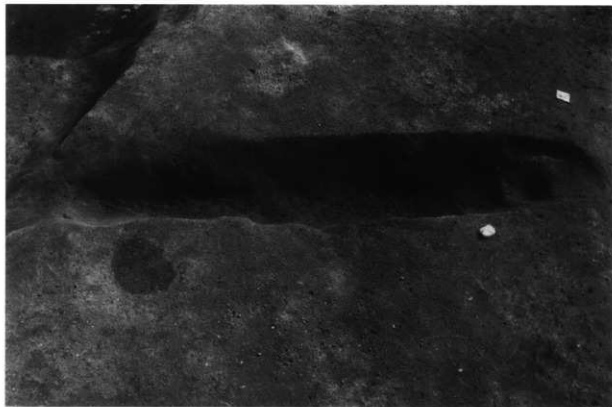
S M 0 3 主体部



SD01



SD03



SD06



SD07



SD02



SD04



SD08



SD20・21



SD17



SD18·19



SD 2 3



SD 2 4



SD 2 5





SD 2 2



重機作業スナップ



空中写真撮影スナップ



測量スナップ



調査スナップ



調査スナップ



見学会スナップ



見学会スナップ



見学会スナップ



見学会スナップ



SB06·17 出土遺物



SB18·19·21 出土遺物



SB01・02・07・10・11 出土遺物



SB04・08 出土遺物



SB08 出土遺物



SD03 出土遺物



SD03 出土遺物



SD04 出土遺物



# 報告書抄録

ふりがな	くぼたいせき	くぼたいちごうこふん	えんまおうづこふん					
書名	久保田遺跡	久保田1号古墳	骸魔王塚古墳					
副書名								
巻次								
シリーズ名	集落編							
シリーズ番号	その1							
編著者名	吉川金利							
編集機関	長野県飯田市教育委員会							
所在地	〒395-0002 長野県飯田市上郷飯沼3145番地 TEL.0265-53-4545							
発行年月日	2002年3月							
ふりがな 所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積㎡	調査原因
		市町村遺跡番号						
くぼたいせき 久保田遺跡	いだしかわじ 飯田市川路 955	20205 406 川9	35° 27' 18"	137° 49' 09"	平成9年 12月11日 から 平成12年 2月29日	7,375㎡	治水対策	
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項		
くぼたいせき 久保田遺跡	集落址	弥生時代  古墳時代 平安時代	竪穴住居址 方形周溝墓 竪穴住居址 竪穴住居址 掘立柱建物址	1 3 16 2 7	弥生土器 弥生石器 土師器 須恵器 木器	久保田1号古墳築造のために集落が移動した可能性がある。		

久保田遺跡  
久保田1号古墳  
倭魔王塚古墳

2002年3月 発行

編集・発行 長野県飯田市上郷飯沼3145番地

長野県飯田市教育委員会

印刷 飯田共同印刷株式会社

